# 初期臨床研修プログラム

2026年度

帝京大学医学部附属病院（基幹型）

UNIVERSITY HOSPITAL
TEIKYO UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE

# ２０２６年度
# 帝京大学医学部附属病院
# 初期臨床研修プログラム

〔総合コース〕
〔産婦人科コース〕
〔小児科コース〕
〔地域重点コース〕
〔基礎研究コース〕

# 序

2004 年度に導入された初期臨床研修を必修とした医師臨床研修医制度は 2009 年度に見直され、2010 年度から新しい研修医制度が実施されています。帝京大学医学部附属病院におきましても、多くの医師が臨床研修指導医講習会やプログラム責任者養成講習会を泊まりがけで受講し、臨床研修のニーズを満たすように努力しています。各病院は個性や工夫を生かした特色ある研修プログラムを作成することができるようになっておりますが、帝京大学医学部附属病院では通常の総合コースに加えて、小児科コース、産婦人科コース、基礎研究コース、地域重点コースを設置しています。

当院では研修医の方々が臨床研修センターの指導のもとで、患者中心の医療と安心・安全な医療の実践を通して、幅広い臨床領域に対応できる基本的な臨床能力を獲得できるよう支援を行っています。また、大学病院における高度で良質な医療を担うプロフェッショナルの一員として診療に参加していただきますが、その中で医療人としてふさわしい人格を涵養できるよう手助けもしております。

当院は 2009 年 5 月に施設設備を一新し、新病院としてリニューアルスタートしてから 15 年の経験を積んでまいりました。日本医療機能評価機構から 2012 年に初回、2017 年に 2 回目、2022 年に 3 回目の認定を受け、施設や設備といったハード面だけでなく、医療安全体制や感染制御体制などソフト面でも大学病院として十分な研修環境を整えております。研修医の方々の待遇改善に関しても、初期臨床研修医の専用スペースとしての臨床研修センターを 2013 年 4 月に新設し、専従の事務職員も配置いたしました。給与体系の見直しや当直体制の在り方など多方面にわたる研修医の待遇改善にも取り組んでいます。更に、全ての基本領域(19 診療科)で日本専門医機構の認定による専門研修プログラムが充実しており、専門医を目指す皆さんに臨床研修中から帝京大学ならではの魅力ある各専門分野を十分にみていただいた上で、研修終了後は円滑に希望の専門分野を選べるようにと配慮しております。

帝京大学医学部附属病院における研修医の方々の 2 年間が実り多く、かけがえのない経験となることを願っています。

2025 年 6 月
病院長　澤村成史

# ご挨拶

この度は帝京大学医学部附属病院の初期臨床研修プログラムに興味をお持ちいただきありがとうございます。当院は理念として「患者そして家族とともにあゆむ医療」を掲げており、高度な医療をより安心、安全に提供することに日々注力しています。特定機能病院、高度救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院（高度型）などの施設認定を受けており、ほぼ全ての分野において専門性の高い先進的な医療を行っています。また同キャンパス内にある大学と連携し、本医学部の使命である「自立と自律の精神を身につけたよき医師を育成して社会に貢献する」ため、シームレスな卒前・卒後の教育・研修を目指し、実践しています。

当院の臨床研修は病院 6 階にある臨床研修センターが中心となり、十分な臨床経験を積むことができる、バランスのとれた研修プログラムを提供するように努めています。主だった専門学会の認定研修施設でもあり、研修終了後に専門医資格を目指す予定の方にも適した環境です。また居室として、センター内に研修医一人ずつに机が貸与されており、学習の場としてのみならず、研修仲間との交流の場としても居心地のよい場所になっています。センターのスタッフが隣に常勤でいるので、必要時に相談がしやすい環境です。

当院の初期臨床研修プログラムには、総合コース、小児コース、産婦人科コース、基礎研究コース、地域重点コースの 5 つがあります。更に、救命救急分野の研修を特に希望する場合には、総合コースの枠内で柔軟に対応しています。また 2021 年度からは基礎研究を始めながら臨床研修も修めることができる基礎研究プログラムを設けています。

プログラム開始時には基礎研修を行います。この期間に医師としての全人的な資質を涵養するための基礎を培い、BLS 講座、院内事故調査制度、医療事故や医療訴訟への対応、病棟における日常の基本的業務および手技に関わる講義と実習など、実臨床で必要な知識と技能の確認を行います。

2 年間の研修内容としては、必修科目として、内科 24 週、救急部門 12 週、外科・産婦人科・小児科・精神神経科・地域研修をそれぞれ 4 週のローテーション研修を行います。その他、最大 40 週の選択研修ができる体制となっており、多くの科を経験して視野を広げることができますし、将来専攻したい分野の研鑽を積むことも可能です。スタッフがサポートしながら、皆さんの希望を最大限尊重した研修プログラムを立案しています。

当院は地域医療においても重要な役割を担っています。医療連携室を中心に近隣の医療機関と緊密な連携を図りながら、救急疾患を含む、いわゆるプライマリケアの対象となる多数の疾患に対する治療を行っており、研修上必要な症例は十分確保されています。更に院内感染や医療安全、保険診療など各科に共通したテーマについて、全職員を対象とした研修会をはじめ、各種のセミナー、講習会を定期的に開催しており、研修の充実を図っています。また、月 1 回程度研修医連絡会を開催するなど、日常的に相談がしやすい環境を整えています。

来春に医師になられる皆様には、当院における初期臨床研修を自信をもってお勧めしたいと思います。そして日々の研修を通して、全ての臨床医に共通して要求される基本的知識、技術を修得し、患者を全人的に診る能力を身につけるとともに、将来専攻する各専門分野で役立つような診療の基礎を修得するよう期待しています。また同時に、一生の財産となる研修仲間を見つけ、関係を育み、今後の豊かな医師生活を送る礎を築いていただきたいと願っています。

2025 年 6 月

臨床研修センター長

山本　貴嗣

# 病院の理念

「患者そして家族と共にあゆむ医療」

# 病院の基本方針

安心安全な高度の医療

患者中心の医療

地域への貢献

医療人の育成

医学研究の推進

## 初期臨床研修の理念

患者とその家族に寄り添い社会に貢献できる人間性豊かな医療人の育成

## 初期臨床研修の基本方針

1. 患者中心の医療の実践
2. 幅広い臨床領域に対応できる基本的臨床能力の修得
3. 医療人としてふさわしい人格の涵養

## 初期臨床研修の目標

患者中心の医療、安心・安全な医療を実践し、大学病院の提供する高度で良質な医療を担うプロフェッショナルの一員として医療に参加し、将来の専門分野に関わらず頻度の高い外傷や疾病に対応できる基本的初期診療能力を有する医師として社会に貢献するために、患者やその家族のニーズを把握し、医学・医療が果たすべき社会的役割を理解し、医療安全の向上に努め、人間性豊な医療人としての人格を涵養し、高度専門的医療に関わりながら幅広い疾患領域を経験することを通して基本的初期診療能力を修得する。

# ― 目　　次 ―


Ⅰ　病院の概要･組織 …… 1

Ⅱ　臨床研修医の待遇等 …… 6

Ⅲ　初期臨床研修プログラム …… 14

１．基礎研修　（集中２週、継続２年間）…… 25

２．必修科目

内　科　（24週）…… 20

救急部門　（12週）…… 20

地域医療研修　（4週）…… 21

外科部門　（4週）…… 21

産婦人科　（4週）…… 22

小児科　（4週）…… 22

精神神経科　（4週）…… 23

外来研修プログラム …… 23

３．選択科目

内　科　（4週以上）…… 25

脳神経内科　（4週以上）…… 28

外　科　（4週以上）…… 29

心臓血管外科　（4週以上）…… 32

整形外科　（4週以上）…… 32

産婦人科　（4週以上）…… 33

小児科　（4週以上）…… 33

眼　科　（4週以上）…… 34

耳鼻咽喉科　（4週以上）…… 34

皮膚科　（4週以上）…… 35

泌尿器科　（4週以上）…… 35

精神神経科　（4週以上）…… 36

放射線科　（4週以上）…… 36

脳神経外科　（4週以上）…… 37

麻酔科　（4週以上）…… 37

リハビリテーション科　（4週以上）…… 37

形成外科　（4週以上）…… 38

救急部門　（4週以上）…… 38

緩和ケア内科　（4週以上）…… 39

病理診断科　（4週以上）…… 39

感染制御部　（4週以上）…… 40

臨床検査科　（4週以上）…… 40

基礎医学　※基礎研究コースのみ …… 41

経験可能な項目 …… 42

補足（初期臨床研修医規定 初期臨床研修医が行う医療行為の規程） …… 114

# Ⅰ　病院の概要・組織

【名　　称】　帝京大学医学部附属病院

【所　在　地】　〒173-8606
東京都板橋区加賀2-11-1
TEL 03-3964-1211（代）

【理　事　長】　冲永　佳史

【病　院　長】　澤村　成史

【開院年月】　昭和46年9月

【許可病床数】　1，066床（4月1日現在）

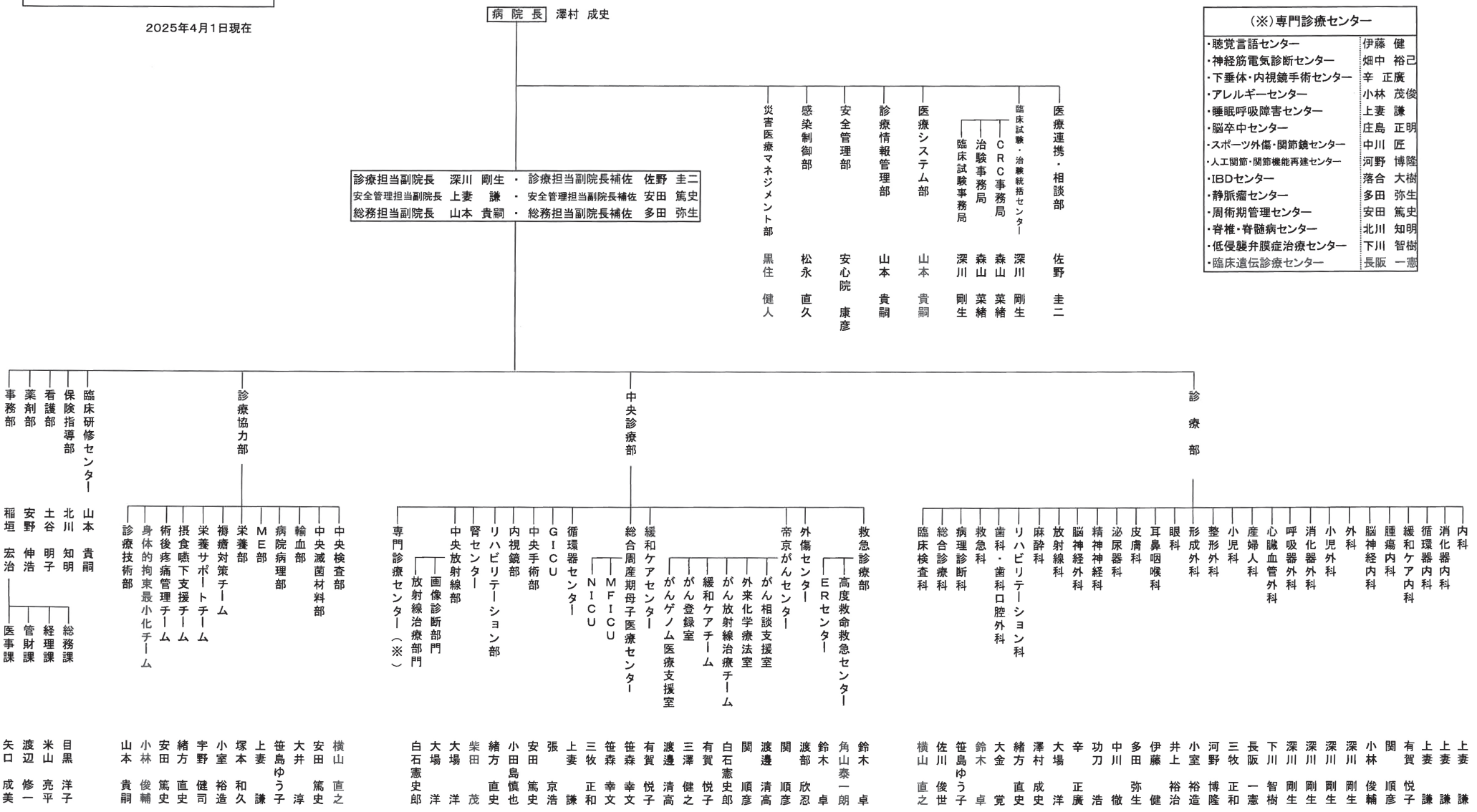
【全職員数】　約2，180名

【承認指定】　特定機能病院
地域がん診療連携拠点病院（高度型）
東京都災害拠点病院
高度救命救急センター
東京都指定二次救急医療機関
救急告示医療機関
東京都地域救急医療センター
総合周産期母子医療センター
東京都エイズ診療拠点病院
東京都難病診療連携拠点病院
東京都肝臓専門医療機関指定
東京都脳卒中急性期医療機関
基幹型臨床研修病院
外国人医師臨床修練指定病院
がんゲノム医療連携病院
東京都アレルギー疾患医療専門病院
東京都小児がん診療病院

【診療科目】　内科、消化器内科、循環器内科、緩和ケア内科、腫瘍内科、
脳神経内科、外科、小児外科、消化器外科、呼吸器外科、
心臓血管外科、小児科、産婦人科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、
皮膚科、泌尿器科、精神科（外来：メンタルヘルス科）、放射線科、
脳神経外科、麻酔科、リハビリテーション科、形成外科、
歯科・歯科口腔外科、救急科、病理診断科、総合診療科、臨床検査科

# 病院組織機構

2025年4月1日現在




（※）専門診療センター

| | |
|---|---|
| ・聴覚言語センター | 伊藤 健 |
| ・神経筋電気診断センター | 畑中 裕己 |
| ・下垂体・内視鏡手術センター | 辛 正廣 |
| ・アレルギーセンター | 小林 茂俊 |
| ・睡眠呼吸障害センター | 上妻 謙 |
| ・脳卒中センター | 庄島 正明 |
| ・スポーツ外傷・関節鏡センター | 中川 匠 |
| ・人工関節・関節機能再建センター | 河野 博隆 |
| ・IBDセンター | 落合 大樹 |
| ・静脈瘤センター | 多田 弥生 |
| ・周術期管理センター | 安田 篤史 |
| ・脊椎・脊髄病センター | 北川 知明 |
| ・低侵襲弁膜症治療センター | 下川 智樹 |
| ・臨床遺伝診療センター | 長阪 一憲 |

# 研修協力施設一覧

| | 施設名 | | 施設名 |
|---|---|---|---|
| 1 | 瀬戸病院 | 26 | 隠岐広域連合立隠岐病院 |
| 2 | 天木診療所 | 27 | 伊藤内科小児科クリニック |
| 3 | 鶴田クリニック | 28 | 小豆沢病院 |
| 4 | 金子病院 | 29 | 交雄会新さっぽろ病院 |
| 5 | 誠志会病院 | 30 | 土佐市民病院 |
| 6 | よりふじ医院 | 31 | 大島ながたクリニック |
| 7 | 新河岸クリニック | 32 | 碓井クリニック |
| 8 | 石川医院 | 33 | おなかとおしりのクリニック東京大塚 |
| 9 | 藤田医院 | | |
| 10 | 田幡医院 | | |
| 11 | いわた医院 | | |
| 12 | ねや内科クリニック | | |
| 13 | 赤羽中央総合病院 | | |
| 14 | 田端中央診療所 | | |
| 15 | 王子神谷齋藤クリニック | | |
| 16 | 田端放射線科クリニック | | |
| 17 | すずき内科 | | |
| 18 | 花と森の東京病院 | | |
| 19 | 服部医院 | | |
| 20 | 内田病院 ● | | |
| 21 | としま町クリニック | | |
| 22 | 野村医院 | | |
| 23 | あらい内科クリニック板橋仲宿 | | |
| 24 | 斎藤記念病院 | | |
| 25 | 区役所前診療所 | | |

●当院と地域医療上で連携が強く、十分な指導体制のもとで様々なバリエーションの経験及び能力形成が可能であり、一般的な診療における頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるような基本的な診療能力を身に付けることのできる良質な研修が見込まれる地域医療。また、理事長は本学卒業後、地域医療の第一人者として認知症高齢者に対するケアを含め幅広い地域医療活動を展開しており、本学部制の臨床実習における臨床教授、臨床研修管理委員にも就任いただいている。日々学生教育ならびに臨床教育にご尽力を賜っている。また、内田病院を中核として、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、在宅支援、グループホーム、デイサービス施設などを近隣に開設されており、当院周辺では研修出来ないような包括ケアシステムに関する充実した研修が実施されていることで連携の強化が図れている。

# 協力型研修病院一覧（地域重点コース）

| | 施設名 |
|---|---|
| 1 | 釧路赤十字病院 |
| 2 | 深川市立病院 |
| 3 | 北上済生会病院 |
| 4 | 県立宮古病院 |
| 5 | 県立久慈病院 |
| 6 | 県立二戸病院 |
| 7 | 県立軽米病院 |
| 8 | 南魚沼市民病院 |
| 9 | 延岡共立病院 |
| 10 | 日高徳洲会病院 |
| 11 | 庄内余目病院 |
| 12 | 大垣徳洲会病院 |
| 13 | 名瀬徳洲会病院 |
| 14 | 徳之島徳洲会病院 |
| 15 | |
| 16 | |
| 17 | |
| 18 | |
| 19 | |
| 20 | |
| 21 | |
| 22 | |
| 23 | |
| 24 | |
| 25 | |

## 指導体制

全診療科に指導医を１名以上配置している

診療責任者：診療科長もしくはグループ長

研修管理責任者：各科もしくは各グループの研修管理委員

| 診療科 | 診療科長もしくはグループ長 | 責任者（臨床研修指導医） |
|---|---|---|
| 内科 | 上妻　謙 | 田村好古 |
| 　腎臓内科 | 柴田茂 | 森本幾之 |
| 　呼吸器内科 | 長瀬洋之 | 杉本直也 |
| 　血液内科 | 田代晴子 | 白崎良輔 |
| 　消化器内科 | 田中　篤 | 淺岡良成 |
| 　総合内科 | 河野　肇 | 盛田幸司 |
| 　腫瘍内科 | 関　順彦 | 渡邊清高 |
| 　循環器内科 | 上妻　謙 | 井関洋成 |
| 脳神経内科 | 小林俊輔 | 小林俊輔 |
| 外科 | 深川剛生 | 神野浩光 |
| 　肝胆膵外科 | 佐野圭二 | 佐野圭二 |
| 　上部外科 | 深川剛生 | 清川貴志 |
| 　下部外科 | 落合大樹 | 野澤慶次郎 |
| 　呼吸器外科 | 坂尾幸則 | 山内良兼 |
| 　乳腺外科 | 神野浩光 | 神野浩光 |
| 　小児外科 | 細田利史 | 細田利史 |
| 　ACS | 伊藤　香 | 伊藤　香 |
| 心臓血管外科 | 下川智樹 | 今水流智浩 |
| 整形外科 | 河野博隆 | 松田健太 |
| 産婦人科 | 長阪一憲 | 笹森幸文 |
| 小児科 | 三牧正和 | 小林茂俊 |
| 眼科 | 井上祐治 | 井上祐治 |
| 耳鼻咽喉科 | 伊藤　健 | 伊藤　健 |
| 皮膚科 | 多田弥生 | 田中隆光 |
| 泌尿器科 | 中川　徹 | 川合剛人 |
| 精神神経科 | 功刀　浩 | 功刀　浩 |
| 放射線科 | 大場　洋 | 山本真由 |
| 脳神経外科 | 辛　正廣 | 樋口茉未 |
| 麻酔科 | 澤村成史 | 柿沼玲史 |
| リハビリテーション科 | 緒方直史 | 緒方直史 |
| 形成外科 | 小室裕造 | 小室裕造 |
| 救急科 | 鈴木卓 | 鈴木卓 |
| 病理診断科 | 笹島ゆう子 | 羽賀敏博 |
| 緩和ケア内科 | 有賀悦子 | 渡辺温子 |
| 感染制御部 | 松永直久 | 松永直久 |
| 臨床検査科 | 横山直之 | 横山直之 |

## Ⅱ　臨床研修医の待遇等

【募集人員】　総合コース：２２名
小児科コース：２名
産婦人科コース：２名
地域重点コース：２名
基礎研究コース：１名

【募集･採用方法】　マッチング実施機関が行うマッチング方式に参加（基礎研究コースを除く）
選考試験に合格した者を採用する

【募集資格】　２０２６年施行の医師国家試験合格見込みの者
マッチング実施機関が行うマッチングに参加登録する者

【研修期間】　２０２６年４月１日～２０２８年３月３１日（２年間）

【待　遇】

| | |
|---|---|
| ○身　分 | 臨床研修医（常勤医） |
| ○給　与 | 月額　約２４０，０００円　（宿日直手当１回６，０００円） |
| ○勤務時間 | １週４０時間（自己学習・研究・図書閲覧などを除く） |
| ○休　暇 | 日曜日・祝祭日・創立記念日（６月２９日） |
| | 年末年始休暇（１２月２９日～１月３日） |
| | 特別有給休暇（慶弔等） |
| | 年次有給休暇：初年度１０日、次年度１１日 |
| | 指定休日月２回 |
| ○社会保険 | 日本私立学校振興・共済事業団（健康保険・年金） |
| | 労働者災害補償保険 |
| ○健康管理 | 年２回の健康診断を実施 |
| ○宿　舎 | なし |
| ○医師賠償責任保険 | 本人加入 |
| ○病院外での研修活動 | 学会等の参加：参加あり |
| ○奨学金 | 指定診療科のコース推奨プログラムのみ |
| ○その他 | 研修期間中のアルバイト診療は禁止する |

【選考方法】
○書類審査
○小論文、面接、適性検査、筆記試験

【提出書類】
①履歴書（本院指定の書式を使用、最近3ヵ月以内の顔写真を貼付）
②卒業（見込）証明書
③成績証明書
④推薦書（学部長、学長、教授または部活の顧問などによる推薦で病院長宛、様式不問）
※①についてはホームページから書式をダウンロードできます
※本学卒業（見込）者は②、④は免除

【申込み・問合せ先】
帝京大学医学部附属病院　臨床研修センター
〒173-8606　東京都板橋区加賀２丁目１１番１号
TEL 03-3964-1211（内線33680）

## 研修プログラムの特色

研修プログラムは週単位とする。
原則として、１週間を5日とする。1)

1) 研修日数は週5日としてカウントするが、勤務は原則週5.5日とし、月2回0.5日を指定休とする。
救急部門での研修中においては、シフト勤務のため勤務は別途定める。

## 【 総合コース 】　　プログラム責任者　　紺野　久美子　　副責任者　髙田　眞二

各研修医は研修開始前に当院と十分協議の上、研修プログラムを作成する。
研修期間は原則として採用の日より２年間とする。
なお、他科を研修中に並行して研修を行うことがある。

| 1年目 | | | | | | | 2年目 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 必修科目 | | | | | | | | |
| 基礎研修 | 内科 24週 | 救急部門 8週 | 外科 4週 | 小児科 4週 | 産婦人科 4週 | 精神科 4週 | 救急部門 4週 | 地域医療 4週 | 選択科目 |
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |

1)　①は、オリエンテーションとして、診療科における研修開始前に、全員参加で行う。
2)　②は、原則として内科および循環器内科にて研修１年目に２４週行う。
3)　②～⑦の期間に並行研修として外傷センター・救急外来研修を実施する可能性がある。
4)　③および⑧は、原則として研修１年目に８週（③）、研修２年目に４週（⑧）とする。
5)　④は、原則として研修１年目に行う。診療科としては、外科または心臓血管外科とするが、いずれの科に配属されるかは、希望できない。
6)　⑤は、原則として研修１年目に行う（外来研修を含む）。
7)　⑥、⑦は、原則として研修１年目に行う。
8)　⑨は、原則として研修２年目に行う（外来研修および在宅医療研修を含む）。
9)　⑩は、原則として研修２年目に行う。
10)　⑩は、並行研修として外来研修を含む。
11)　研修プログラムの管理運営は研修管理委員会で行う。研修管理委員会は病院管理者、各プログラム責任者、臨床研修センター長、各診療科代表、看護部代表、事務部代表、協力型病院、協力施設代表者、及び外部委員で構成。

〔選択可能な科目〕
内科、循環器内科、脳神経内科、外科、心臓血管外科、整形外科、産婦人科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神神経科、放射線科、脳神経外科、麻酔科、リハビリテーション科、形成外科、救急部門、緩和ケア内科、病理診断科、感染制御部、臨床検査科

## 【 小児科コース 】　　プログラム責任者　　三牧　正和

将来、小児科を専攻しようとする研修医のためのプログラムである。
主として小児科で研修するプログラムであるが、関連する他科も研修可能である。
各研修医は研修開始前に当院と十分協議の上、研修プログラムを作成する。
研修期間は原則として採用の日より２年間とする。
なお、他科を研修中に並行して研修を行うことがある。

| | 必修科目 | | | | | | | | 選択科目 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎研修4週 | 内科 24週 | 救急部門 8週 | 外科 4週 | 小児科 12週 | 産婦人科 4週 | 精神科 4週 | 救急部門 4週 | 地域医療 4週 | ●到達目標に必要な診療科<br>●目標達成後、原則として小児科ないし産婦人科<br>●希望する診療科 |
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |

1)　①は、オリエンテーションとして、診療科における研修開始前に、全員参加で行う。
2)　②は、原則として内科および循環器内科にて研修１年目に２４週行う。
3)　②～⑦の期間に並行研修として外傷センター・救急外来研修を実施する可能性がある。
4)　③および⑧は、原則として研修１年目に８週（③）、研修２年目に４週（⑧）とする。
5)　④は、原則として研修１年目に行う。診療科としては、外科または心臓血管外科とするが、いずれの科に配属されるかは、希望できない。
6)　⑤は、原則として研修１年目に８週、２年目に４週行う。
7)　⑥、⑦は、原則として研修１年目に行う。
8)　⑨は、原則として研修２年目に行う。
9)　⑩は、原則として研修２年目に行う。各診療科の所属期間４週を最小単位とし、臨床研修の到達目標達成に必要な診療科において研修を行うとともに、目標達成後は、原則として、小児科において研修する。希望する診療科における研修も可能である。（研修ローテーションの例を参照のこと）
10)　⑩は、並行研修として外来研修を含む。
11)　研修プログラムの管理運営は研修管理委員会で行う。研修管理委員会は病院管理者、各プログラム責任者、臨床研修センター長、各診療科代表、看護部代表、事務部代表、協力型病院、協力施設代表者、及び外部委員で構成。

※コース推奨プログラム選択（小児科1年目8週、2年目16週）者は、希望により奨学金を貸与する。

〔選択可能な科目〕

内科、循環器内科、脳神経内科、外科、心臓血管外科、整形外科、産婦人科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神神経科、放射線科、脳神経外科、麻酔科、リハビリテーション科、形成外科、救急部門、緩和ケア内科、病理診断科、感染制御部、臨床検査科

## 【 産婦人科コース 】　　プログラム責任者　　笹森　幸文

将来、産婦人科を専攻しようとする研修医のための研修プログラムである。
主として産婦人科で研修するプログラムであるが、関連する他科も研修可能である。
各研修医は研修開始前に当院と十分協議の上、研修プログラムを作成する。
研修期間は原則として採用の日より２年間とする。
なお、他科を研修中に並行して研修を行うことがある。

| 必修科目 | | | | | | | | | 選択科目 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎研修4週 | 内科24週 | 救急部門8週 | 外科4週 | 産婦人科12週 | 小児科4週 | 精神科4週 | 救急部門4週 | 地域医療4週 | ●到達目標に必要な診療科<br>●目標達成後、原則として小児科ないし産婦人科<br>●希望する診療科 |
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |

1)　①は、オリエンテーションとして、診療科における研修開始前に、全員参加で行う。
2)　②は、原則として内科および循環器内科にて研修１年目に２４週行う。
3)　②～⑦の期間に並行研修として外傷センター・救急外来研修を実施する可能性がある。
4)　③および⑧は、原則として研修１年目に８週（③）、研修２年目に４週（⑧）とする。
5)　④は、原則として研修１年目に行う。診療科としては、外科または心臓血管外科とするが、いずれの科に配属されるかは、希望できない。
6)　⑤は、原則として研修１年目に８週、２年目に４週行う。
7)　⑥、⑦は、原則として研修１年目に行う。
8)　⑨は、原則として研修２年目に行う。
9)　⑩は原則として研修２年目に行う。各診療科の所属期間４週を最小単位とし、臨床研修の到達目標達成に必要な診療科において研修を行うとともに、目標達成後は、原則として、産婦人科において研修する。希望する診療科における研修も可能である。(研修ローテーションの例を参照のこと)
10)　⑩は、並行研修として外来研修を含む。
11)　研修プログラムの管理運営は研修管理委員会で行う。研修管理委員会は病院管理者、各プログラム責任者、臨床研修センター長、各診療科代表、看護部代表、事務部代表、協力型病院、協力施設代表者、及び外部委員で構成。

※コース推奨プログラム選択（産婦人科1年目8週、2年目12週、麻酔科8週）者は、希望により奨学金を貸与する。

〔選択可能な科目〕

内科、循環器内科、脳神経内科、外科、心臓血管外科、整形外科、産婦人科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神神経科、放射線科、脳神経外科、麻酔科、リハビリテーション科、形成外科、救急部門、緩和ケア内科、病理診断科、感染制御部、臨床検査科

## 【 地域重点コース 】　　プログラム責任者　　山本　貴嗣

医師少数県・地域重点的にローテイトする研修である。
各研修医は研修開始前後に当院と十分協議の上、広域連携先を選定して研修プログラムを作成する。
研修期間は原則として採用の日より２年間とする。
なお、他科を研修中に並行して研修を行うことがある。

| 1年目 | | | | | | | 2年目 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 必修科目 | | | | | | | | | |
| 基礎研修4週 | 内科24週 | 救急部門8週 | 外科4週 | 小児科4週 | 産婦人科4週 | 精神科4週 | 救急部門4週 | 地域医療4週 | 広域連携24週 | 選択科目 |
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ |

1)　①は、オリエンテーションとして、診療科における研修開始前に、全員参加で行う。
2)　②は、原則として内科および循環器内科にて研修１年目に２４週行う。
3)　②～⑦の期間に並行研修として外傷センター・救急外来研修を実施する可能性がある。
4)　③は、原則として研修１年目に８週、研修２年目に４週（⑧）とする。
5)　④、⑤、⑥、⑦は、原則として研修１年目に行う。④は外科または心臓血管外科とするが、いずれの科に配属されるかは、希望できない。
6)　⑨は、原則として研修２年目に行う（外来研修および在宅医療研修を含む）。
7)　⑩は、原則として研修２年目に１６週～２４週行う。
8)　⑪は、原則として研修２年目に行う。
9)　⑪は、並行研修として外来研修を含む。
10)　研修プログラムの管理運営は研修管理委員会で行う。研修管理委員会は病院管理者、各プログラム責任者、臨床研修センター長、各診療科代表、看護部代表、事務部代表、協力型病院、協力施設代表者、及び外部委員で構成。

〔選択可能な科目〕

内科、循環器内科、脳神経内科、外科、心臓血管外科、整形外科、産婦人科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神神経科、放射線科、脳神経外科、麻酔科、リハビリテーション科、形成外科、救急部門、緩和ケア内科、病理診断科、感染制御部、臨床検査科

## 【 基礎研究コース 】　　プログラム責任者　　田村　好古

各研修医は研修開始前に当院と十分協議の上、研修プログラムを作成する。
研修期間は原則として採用の日より２年間とする。
臨床研修後、４年以内を目処に作成した基礎医学の論文を研修管理委員会に提出すること。
なお、他科を研修中に並行して研修を行うことがある。

| 1年目 | | | | | | | 2年目 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 必修科目 | | | | | | | | | |
| 基礎研修 | 内科 24週 | 救急部門 8週 | 外科 4週 | 小児科 4週 | 産婦人科 4週 | 精神科 4週 | 救急部門 4週 | 地域医療 4週 | 基礎研究 16週 | 選択科目 |
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑪ |

1)　①は、オリエンテーションとして、診療科における研修開始前に、全員参加で行う。
2)　①基礎研修開始前に基礎医学系の教室を決定する。
3)　②は、原則として内科および循環器内科にて研修１年目に２４週行う。
4)　②～⑦の期間に並行研修として外傷センター・救急外来研修を実施する可能性がある。
5)　③は、原則として研修１年目に８週、研修２年目に４週（⑧）とする。また、更に並行研修を実施する場合がある。
6)　④、⑤、⑥、⑦は、原則として研修１年目に行う。④は外科または心臓血管外科とするが、いずれの科に配属されるかは、希望できない。
7)　⑨は、原則として研修２年目に行う（外来研修および在宅医療研修を含む）。
8)　⑩は、原則として研修２年目に１６週～２４週行う
（⑩を開始する前に臨床研修の到達目標の到達度の評価をおこなう）。
9)　⑪は、原則として研修２年目に行う。
10)　⑪は、並行研修として外来研修を含む。
11)　研修プログラムの管理運営は研修管理委員会で行う。研修管理委員会は病院管理者、各プログラム責任者、臨床研修センター長、各診療科代表、看護部代表、事務部代表、協力型病院、協力施設代表者、及び外部委員で構成。

〔選択可能な科目〕

内科、循環器内科、脳神経内科、外科、心臓血管外科、整形外科、産婦人科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神神経科、放射線科、脳神経外科、麻酔科、リハビリテーション科、形成外科、救急部門、緩和ケア内科、病理診断科、感染制御部、臨床検査科、生理学、生化学、病理学、薬理学、公衆衛生学

# 研修ローテーションの例

【総合コース】

1.　内科志望の研修医の一例

| 1年目 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎研修 | 内科<br>（24週） | 選択<br>（4週） | 救急部門<br>（8週） | 外科<br>（4週） | 小児科<br>（4週） | 産婦人科<br>（4週） |

| 1年目 | 2年目 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 精神科<br>（4週） | 地域医療<br>（4週） | 救急部門<br>（4週） | 循環器内科<br>（8週） | 脳神経内科<br>（8週）<br>外来研修 | 血液内科<br>（8週） | 呼吸器内科<br>（8週） | 放射線科<br>（4週） | 腫瘍内科<br>（4週） |

2．眼科志望の研修医の一例

| 1年目 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎研修 | 内科<br>（24週） | 選択<br>（4週） | 救急部門<br>（8週） | 外科<br>（4週） | 小児科<br>（4週） | 産婦人科<br>（4週） |

| 1年目 | 2年目 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 精神科<br>（4週） | 地域医療<br>（4週） | 救急部門<br>（4週） | 麻酔科<br>（8週） | 脳神経内科<br>（8週）<br>外来研修 | 眼科<br>（24週） |

【小児科コース】

1．小児科志望の研修医の一例

| 1年目 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 基礎研修 | 内科<br>（24週） | 救急部門<br>（8週） | 外科<br>（4週） | 産婦人科<br>（4週） | 小児科<br>（8週） |

| 1年目 | 2年目 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 精神科<br>（4週） | 地域医療<br>（4週） | 耳鼻咽喉科<br>（8週） | 救急部門<br>（4週） | 整形外科<br>（4週） | 小児外科<br>（4週） | 小児科<br>（24週） |
| | | 外来研修 | | | | |

【産婦人科コース】

１．産婦人科志望の研修医の一例

| 1年目 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎研修 | 内科<br>（24週） | 救急部門<br>（8週） | 外科<br>（4週） | 産婦人科<br>（4週） | 小児科<br>（4週） | 精神科<br>（4週） |

| 1年目 | 2年目 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 産婦人科<br>（4週） | 地域医療<br>（4週） | 救急部門<br>（4週） | 麻酔科<br>（8週） | 放射線科<br>（4週） | 泌尿器科<br>（4週） | 循環器内科<br>（4週） | 病理診断科<br>（4週） | 産婦人科<br>（12週） |
| | | | 外来研修 | | | | | |

【基礎研究コース】

１．基礎医学志望の研修医の一例

| 1年目 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎研修 | 内科<br>（24週） | 救急部門<br>（8週） | 外科<br>（4週） | 産婦人科<br>（4週） | 小児科<br>（4週） | 精神科<br>（4週） |

| 1年目 | 2年目 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 選択<br>（4週） | 地域医療<br>（4週） | 救急部門<br>（4週） | 麻酔科<br>（4週） | 耳鼻科<br>（4週） | 眼科<br>（4週） | 皮膚科<br>（4週） | 病理診断科<br>（4週） | 基礎研究（16週） |
| | | | | 外来研修 | | | | |

# Ⅲ　初期臨床研修プログラム

## １．基礎研修　（集中２週、継続２年間）

### Ⅰ　到達目標

以下の到達目標について、入職後2週間にわたる集中プログラムを受講するとともに、その後、病棟研修、外来研修等を通し、2年間をかけて目標を修得する。

**A．医師としての基本的な価値観（プロフェッショナリズム）**

**1.　社会的使命と公衆衛生への寄与**

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

**2.　利他的な態度**

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

**3.　人間性や尊重**

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

**4.　自らを高める姿勢**

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

**B．資質・能力**

**1.　医学・医療における倫理性**

診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

①人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。

②患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。

③倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。

④利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。

⑤診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

**2.　医学知識と問題対応能力**

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

①頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。

②患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。

③保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し実行する。

**3.　診療技能と患者ケア**

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

①患者の健康状態に関する情報を心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。

②患者の状態に合わせた、適切な治療を安全に実施する。

③診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

**4.　コミュニケーション能力**

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。

②患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。

③患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

**5. チーム医療**

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

①医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。

②チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

**6. 医療の質と安全の管理**

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

①医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。

②日常業務の一環として、報告・連絡を実践する。

③医療事故等の予防と事後の対応を行う。

④医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む）を理解し、自らの健康管理に努める。

**7. 社会における医療の実践**

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

①保健医療に関する法則・制度の目的と仕組みを理解する。

②医療費の患者負担に配慮しつつ、公的医療保険制度を適切に活用する。

③地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。

④予防医療・保健・健康増進に努める。

⑤地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。

⑥災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

**8. 科学的探究**

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

①医療上の疑問点を研究課題に変換する。

②科学的研究方法を理解し、活用する。

③臨床研究や知見の意義を理解し、協力する。

**9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢**

医療の質向上のために省察し、他の医師・技術の吸収に努める。

①急速に変化・発展する医学知識、技術の吸収に努める。

②医師に限らず、医療従事者と互いに教え、学びあう。

③国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む）の理解に努める。

**10. 病院内の組織**

①診療科、看護部、薬剤部、診療補助部門、事務部の役割を理解する。

②病院内の各組織と連携を持って行動する。

**11. 診療に関わる基本手技**

①採血、注射・点滴、消毒、清潔操作、手洗い、包交、糸結び、縫合等の手技を習得する。

②医療情報システムを理解し、運用する。

③CVC操作の技能を習得する。

**12. 感染対策**

①感染制御部の院内体制等を理解する。

②院内感染に対する認識を深め、基本的な感染制御対策を実施する。

**13. 予防医療**

①予防接種の意義や接種可否の判断、計画の作成などを理解する。

②法定健（検）診などの予防医療について公衆衛生上の重要性と各種事業を推進する意義を理解する。

③メンタルヘルスケアの理解を深める。

**14. 虐待への対応**

①小児虐待において医療機関に求められる早期発見につながる所見や徴候、及びその後の児童相談所との連携等について院内体制等を理解する。

②DV、高齢者、障害者虐待の院内体制等を理解する。

**15. 緩和ケア**（アドバンス・ケア・プランニングを含む）

①緩和ケア講習会を受講し、生命を脅かす疾患に伴う諸問題を抱える患者と、その家族に対する緩和ケアの意義を理解する。

②緩和ケアが必要となる患者に対する緩和ケア導入の適切なタイミングの判断や、心理社会的な配慮について理解する。

③人生の最終段階を迎えた本人や家族等と医療・ケアチームが、合意のもとに最善の医療・ケアの計画を作成することの重要性とそのプロセスを学ぶ。

④病棟研修において実践する。

**16. 社会復帰支援**

①院内体制について理解する。

②長期入院などにより一定の治療期間、休職や離職を強いられた患者が直面する困難や、社会復帰のプロセスを理解する。

③病棟研修において患者、ソーシャルワーカー等とともに、社会復帰支援計画を作成し、社会復帰支援を実践する。

**17. CPC**

①CPCに参加し、剖検症例の臨床経過と剖検結果を照らし合わせることにより、疾病・病態について理解を深める。

②剖検症例の臨床経過を詳細に検討して問題点を整理した上で、CPCにおける臨床側からの症例プレゼンテーションを行い、臨床経過と病理解剖診断を総括し、CPCでの討議を踏まえた考察を加えた記録を作成する。

**18. その他**

①自身の健康管理に留意し、充実した２年間を過ごす。

②就業規則を遵守し、組織人としての行動をとる。

Ⅱ　研修方略

入職後2週間にわたる集中プログラムの受講ならびに、その後の病棟研修及び外来研修等におけるon-the-job-trainingを行う。

Ⅲ　研修評価

集中プログラムの受講や医療安全セミナーへの参加実績、CPCへの参加実績、発表に際して作成した記録ならびにPG-EPOCシステムに基づいて評価を行う。

**原則として、地域医療研修を除く研修は、帝京大学医学部附属病院にて行う**

２．必修科目

**内　科**　（24週）

総合内科、腎臓内科、血液内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腫瘍内科にて研修を行う。

〔特色〕

すべての医師にとって基礎となる内科の知識・手技を修得できる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

幅広い内科的疾患に対する診療と治療に対応できるようになるために病棟及び外来を中心とした研修を実施する。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

**救急部門**　（12 週）

〔特色〕

年齢、性別、傷病種類、受診手段を問わず、多彩な緊急度と重症度を有する傷病者の初期評価、必要に応じた蘇生処置、臨床推論、初期診断、治療を経験することができる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024 年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

原則として研修1年目に8週、研修2年目に4週。

外来診療を通じた on-the-job-training、定期的な Short lecture、抄読会等。頻度の高い症候と疾患、緊急度の高い病態（指導医とともに経験）、定期的に外来・入院症例カンファランスやレクチャーに参加して重症救急患者管理に係る知識を習得する。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 地域医療研修　（4 週）

2年次に1か月（4週以上）行うことを必修とする。希望する場合には、2年次の選択研修期間内にさらに1か月（4週以上）行うことができる。
臨床研修協力施設（別表）において実施する。都市型地域医療とは対極にある郊外での地域医療における研修も選択可能である。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕
当院の二次医療圏または同一の都道府県、生活圏を同じくする都県境を越えた隣接する二次医療圏における臨床研修協力施設、または、地域医療上で連携が強く、十分な指導体制のもとで様々なバリエーションの経験及び能力形成が可能であり、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるような基本的な診療能力を身につけることのできる良質な研修が見込まれる臨床研修協力施設において、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携を含む地域包括ケアの実際を学ぶため、一般外来研修、在宅医療研修を行う。さらに、病棟研修を行う場合には、慢性期・回復期病棟での研修を行う。

〔評価〕
PG-EPOCに基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

## 外科部門　（4週）

（外科または心臓血管外科）

〔特色〕
・外科手術に携わりながら、呼吸・循環・代謝・消化吸収・栄養管理など全身管理を学ぶことができる。
・がん診療に関わる化学療法・放射線治療・緩和医療について経験できる。
・チーム医療として外科診療を経験することができる。
・呼吸器外科・乳腺外科・小児外科・消化器外科といった外科の広い領域を研修することが可能である。外科専門医を取得するための症例集積を行うことも可能である。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024 年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕
①臨床研修指導医によるon-the-job-training
・術前に縫合結紮のトレーニングを行う。
・手術前の患者を指導医と受け持ち術前診断、治療法の提示、術前管理を行う。
②臨床指導研修医並びにその指導・監督に基づく外科専門医によるセミナー・カンファレンス
③学会・研究会への参加
日本外科学会をはじめ様々な外科系の学会に参加し専門的な知識を習得する。演題発表を行い業績集積することもできる。

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 産婦人科　（4 週）

〔特色〕
① 産科では周産期管理、特に分娩介助（経腟分娩、帝王切開管理)、胎児心拍陣痛図（CTG）読影、胎児超音波の基礎的な技能を取得できる。
② 婦人科では良性および悪性腫瘍の手術助手、開腹手術、腹腔鏡手術、子宮鏡手術の基礎手技、悪性腫瘍患者の化学療法管理、緩和ケア管理を学ぶ。
③ 産婦人科救急（急性腹症、異常子宮出血、卵巣茎捻転、異所性妊娠、卵巣出血、月経困難症、PID など）における初期対応を研修できる。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕
産婦人科については、妊娠・出産、産科疾患や婦人科疾患、思春期や更年期における医学的対応などを含む一般診療において、頻繁に遭遇する女性の健康問題への対応等を習得するために、幅広い産婦人科領域に対する診療を行う研修を実施する。

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 小児科　（4週）

〔特色〕
①新生児から思春期まであらゆる年齢層の患者に接することで、小児の診療に慣れることができる。
②小児救急において、患者の状態を適切に把握しトリアージする能力を身につけることができる。
③common disease から専門的な疾患まで、幅広い疾患を経験できる。
④小児診療におけるさまざまな手技を習得できる。
⑤健診や思春期診療を通じて、成育医療の考え方を身につけることができる。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕
小児の心理・社会的側面に配慮しつつ、新生児期から思春期までの各発達段階に応じた総合的な診療を行うために、幅広い小児科疾患に対する診療を行う病棟・外来研修を含む研修を実施する。

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 精神神経科　（4週）

〔特色〕

精神科の病棟を中心に主な精神疾患の患者を実際に診察し、精神症状の診察方法、初回面接を含む面接技法、カルテ記載、アセスメント、薬物療法の基本について習得できる。他科において身体症状に基づく精神症状（せん妄など）の診察方法、基本的介入法を学ぶことができる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

急性期病棟での指導医のもとでの診療、さらに精神科リエゾンチームでの研修を通して、精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対し全人的に対応できる能力を養う。
希望により外来新患の診察の研修も可能である。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 外来研修プログラム

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

外来研修は、半日を1単位として、2年間で40単位以上を実施する。

1. 1 年次の小児科必修研修の 4 週のうち、半日の外来研修を 2 単位行う。
2. 2 年次の地域医療研修において、20 単位以上実施する。
3. 2 年次の選択期間 36 週のうち、並行研修として 18 単位行う。研修する診療科としては、内科、外科、小児科、総合診療科とする。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

## 広域連携プログラム

2 年次に 6 か月（24 週）行うことを必修とする。
医師少数県・医師少数地域の協力型研修病院（別表）において実施する。

〔目標〕

医師少数県・医師少数地域における医療の実態を把握し、プライマリーケアの診療能力を高める。

〔方略〕

1. 事前に当該地域の医療特性を学修し理解する。
2. 研修病院が属する地域の包括ケアシステムに一員として参加し、地域医療を実践する。
3. 当該地域に特徴的な疾患を経験し、適切な対処法について学修する。
4. 外来診察研修を行う（希望者）。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

## ３．選択科目

## 内　科　（4 週以上）

**総合内科**

〔特色〕

①内分泌・代謝内科、感染症内科、膠原病内科の専門知識に加え、腎臓内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科などの様々な疾患に関して幅広い知識の習得ができる。

②中心静脈カテーテル挿入、胃瘻造設、腰椎穿刺などの基本的な手技を経験することができる。

③患者の診断、治療、その後の地域連携にも関わることができる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

指導医、後期研修医などとチーム診療体制をとり、様々な入院患者の一般的・全身的な診療とケア、及び一般診療で頻繁に関わる症候や内科的疾患に対応するために、幅広い内科的疾患を対象とした診療を行う病棟研修を含む研修を実施する。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

**腎臓内科**

〔特色〕

糸球体疾患、尿細管疾患、高血圧、慢性腎臓病、全身疾患に関連した腎臓病など、関連する疾患の専門知識、診断、治療について学ぶことができる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

入院患者の一般的・全身的な診療とケア、また一般的診療で頻繁にかかわる腎臓病ならびに関連疾患に対応するために、幅広い疾患に対する幅広い診療を行う病棟研修を含む研修を実施する。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

**血液内科**

〔特色〕

①内科医として必要な診察、基本手技、基本知識（輸液管理など含む）の習得に加え、血液内科としての専門知識（血液疾患の診断、化学療法、輸血療法、造血細胞移植療法など）の習得ができる。

②骨髄穿刺の他、中心静脈カテーテル挿入、腰椎穿刺はローテートの間にほぼ経験できる。

③診断から治療まで一貫して関わることができる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

指導医とともに、６-８人程度の入院患者の受け持ちとなり、全身的な診療とケア、一般診療で頻繁に関わる症候及び血液内科特有の疾患に対応できるよう、病棟研修を実施する。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

**循環器内科**

〔特色〕

①Common diseaseである心不全、急性冠症候群、急性大動脈解離、肺血栓塞栓症、弁膜症、不整脈、心筋症などをまんべんなく経験でき、急性期治療から慢性期の管理まで幅広く学ぶことができる。

②中心静脈カテーテル挿入、動脈ライン挿入などの手技が多く、また心電図、心エコーなど画像検査も豊富に経験できる。

③高度な医療に触れることができ、患者の診断、治療選択の幅が広がる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

多くのカンファレンスと指導医からの指導により、入院患者の一般的・全身的な診療とケア、手技について学び、一般診療で頻繁に関わる循環器的症候や内科的疾患に対応するために、幅広い内科的疾患に対する診療を行う病棟研修、救急外来研修を実施する。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

**消化器内科**

〔特色〕

Common diseasesから専門性の高い疾患まで幅広い消化器疾患に対応している。腹痛や黄疸、発熱、下痢・嘔吐、吐下血など重要な消化器系症候に対する対応能力が取得できるとともに、内科系の一般手技はもちろん、消化器内視鏡、腹部超音波検査などの実技、腹部CTやMRMRの読影能力も習得でき、将来のキャリアを形成するうえで重要な時間を消化器内科研修で過ごすことができる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

入院患者の一般的・全身的な診療とケア及び一般診療で頻繁に関わる消化器系の症候や消化器疾患に対応するために、幅広い消化器疾患に対する診療を行う病棟研修を含む研修を実施する。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

**呼吸器内科**

〔特色〕

1) 内科医として必要な胸部画像読影を学ぶことができる。喘息、COPD、肺炎等のcommon diseasesの診断、管理に加え、肺癌、間質性肺疾患、好酸球性肺疾患等の専門性が高い疾患の初期評価も学ぶことができる。胸腔穿刺、胸腔ドレナージ、気管支鏡検査も経験することができる。
2) アレルギー疾患に関しては、アナフィラキシーの初期対応、原因検索の方法を学ぶことができる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

入院患者の一般的・全身的な診療とケア及び一般診療で頻繁に関わる症候や内科的疾患に対応するために、幅広い内科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含む研修を実施する。呼吸器・アレルギー疾患を中心に管理を学ぶが、全身的なプロブレムも合わせて対応することも重視する。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

**腫瘍内科**

〔特色〕

がんを診る総合内科医、がん診療のスペシャリストとしての最新の専門知識、幅広い症候、さまざまな手技（がんの診断、鑑別、抗がん薬物療法、免疫チェックポイント阻害薬、分子標的治療薬、輸血、ベッドサイドでの検査・処置など）を習得できる。網羅的な遺伝子パネル解析をはじめ分子生物学的手法を駆使した悪性疾患の病態解明、臨床試験・治験による治療法の開発研究、患者に寄り添う全人的ながん医療の実践、専門医および学位の取得が可能。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

入院患者の一般的・全身的な診療とケア、および一般診療で頻繁に関わる症候や内科的疾患に対応するために、がんを含む幅広い内科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含む研修を実施する。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

脳神経内科　（4 週以上）

〔特色〕

一次脳卒中センターコア施設に指定され、神経筋電図診断センターに全国から多くの神経筋疾患の紹介を受けているため、研修期間に脳卒中、末梢神経障害をはじめ、変性疾患、神経感染症などの脳神経内科がカバーする疾患の診療について偏らずに幅広く経験することができる。一般臨床医としてプライマリーケアに必要とされる基本的知識とともに、神経学的診察の基礎を身につけることができる。

将来神経学を専攻する医師のための準備プログラムにも対応し、大学院では電気生理学的手法、分子生物学的手法及び神経心理学的な手法を用いた神経疾患の研究、学位の取得が可能である。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

①入院患者の一般的・全身的な診療とケア

②神経学的診察法、電気生理学的診断と神経放射線学的診断の基礎

③エビデンスに基づいた神経疾患の治療法

病棟チームの一員として幅広い脳神経内科的疾患の診療を行い、上記について学ぶ研修を実施する。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

外　科　（4 週以上）

**上部消化管外科**

〔特色〕

①胃癌・食道癌などに対する検査・手術・術後管理・化学療法・緊急時対応などが幅広く研修でき、疾患に対する理解が深まる。

②手術だけではなく、内視鏡検査日も週2日あり、研修が可能。

③各種ヘルニアの外科治療も行っており、基本的な手技が習得できる。

毎日行われるカンファレンスを通じて、疾患・治療方針の理解が深まるとともにプレゼンテーションの能力習熟も可能。がんに関する基礎系研究を行っている大学院生も在籍し、研究の一端も学ぶことができる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

一般診療において頻繁にかかわる疾患への対応、基本的な外科的手技、周術期の全身管理を習得するために、手術への参加、病棟での研修を行う。上部消化管外科では、胃癌・食道癌・腹部ヘルニアを中心に幅広い研修を行う。研修は各医局員との対話を通じて親密に行う。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

**下部消化管外科**

〔特色〕

①外科手術に携わりながら、呼吸・循環・代謝・消化吸収・栄養管理など全身管理を学ぶことができる。

②様々な外科手術手技、特に内視鏡外科手術を経験することが可能である。

③がん診療に関わる化学療法・放射線治療・緩和医療について経験可能である。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

A. On-the-job training

・手術前の患者を担当して術前診断、治療法の選択、術前管理を行う。

・縫合結紮のトレーニング、鉗子を用いた結紮を行う。

・手術に実際に参加し、手術後の患者を担当して術後管理を行う。

・周術期の患者の問題点を上級医に報告し、対策を考える。

B. カンファレンス・勉強会
症例検討会：毎朝8時より
術前・術後症例検討会：週1回
抄読会：2ヶ月に1回
腹腔鏡手術ビデオクリニック：月1回
腹腔鏡手術勉強会：年5回
学会発表

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

**肝胆膵外科**

〔特色〕
指導医の下でチームの一員として、入院患者の全般的管理を行いながら、術前・術後管理を学ぶとともに、手術に参加することで、外科医に必要な診断、全身管理、実際の手術手技について学ぶことができる。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕
実際に症例を受け持ち、必要な手技（腹部エコー、各種ドレナージ）や手術についても指導医の指導下で実施する。

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

**呼吸器外科**

〔特色〕
基本的に全手術に参加し、基本的外科手技を習得する。さらに、毎朝のカンファレンスで症例プレゼンテーションを担当することでプレゼンテーション能力を磨くとともに、併存疾患を含めた全身管理の中で鑑別疾患を複数挙げることの習慣付けを行う。鏡視下手術の技術習得のためにトレーニングボックスやブタ肺を用いた練習機会を設ける。加えて、担当症例の中から研究会や学会発表の機会を提供するとともに、その指導を行う。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

外科的技術の基礎と、外科治療が成立する基礎となる医学的知識を理解することを目的として、周術期管理を含めた呼吸器疾患に対する診療を行う病棟研修を中心とした研修を実施する。さらに、初期臨床研修期間にできるようになるべき手術・処置・検査手技を身につけることを目的として、呼吸器外科手術や気管支鏡検査に参加する研修を実施する。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

**乳腺外科**

〔特色〕

近年乳癌の増加傾向は著しく、社会の関心の高まりや検診の推進を受け、乳腺診療にはより高い技術と専門性が求められるようになっている。乳腺グループでは、年間約200例以上の原発性乳癌の診断、手術、薬物治療、さらには進行・再発乳癌の治療にも精力的に取り組んでいる。当グループの研修では、乳腺診療に必要な基本的知識、態度、手術手技を習得し、チーム医療の一員として乳腺疾患の診断治療プロセスを学ぶことができる。

1. 乳腺外科手術に携わりながら、呼吸・循環・代謝・内分泌・栄養管理など全身管理を学ぶことができる。
2. 手術、検査、術後処置などを通して、外科手技の基本を身につけることができる。
3. 乳癌を中心とした乳腺疾患診断（触診、マンモグラフィ、MRI、CT の読影、乳腺超音波、針生検など）を学ぶことができる。
4. 乳癌診療に関わる化学療法、内分泌療法、放射線療法、緩和医療について経験でき、がん患者・家族とのコミュニケーションの取り方を習得できる。
5. 抄読会、カンファレンスなどを通じて、最新のエビデンスや治療方針について学ぶことができる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

1. 指導医、シニアレジデントとともに毎日回診し、患者の診察、カルテ記載を行う。
2. 乳腺カンファレンスで症例を提示し、診断および治療方針について検討する。
3. 手術に参加して縫合結紮など基本手技を経験する。
4. 周術期および終末期患者を担当し、術前・術後管理や緩和ケアの実際を経験する。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

**小児外科**

〔特色〕

小児外科は狭い領域のみ診療していると思われがちだが、実際は小児から成人まで、内科疾患から外科疾患まで、胸部臓器から腹部臓器まで幅広く診療しており、多種多様な経験をすることができる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

入院患者の一般的・全身的な診療とケア及び一般診療で頻繁に関わる症候や小児外科的疾患に対応するために、幅広い小児外科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含む研修を実施する。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

心臓血管外科　（4 週以上）

〔特色〕

①心臓血管外科医もしくは血管外科医としての専門知識、手技（CV挿入、胸腔穿刺、経胸壁心エコー、経食道心エコー、シャント造設、胸骨正中切開等）を習得できる。また、循環器センターでの周術期管理も経験できる。

②新しい手術方式やデバイスを用いた臨床研究や動物を用いた基礎医学研究で学位の取得が可能。

〔目標〕

医師臨床研修ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

一般診療において頻繁に関わる外科的疾患への対応、基本的な外科手技の習得、周術期の全身管理などに対応するために、幅広い外科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含む研修を実施する。特に、急性大動脈解離などの致死的な疾患に対しては救急部門と連携して研修を行う。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

整形外科　（4 週以上）

〔特色〕

①一般的な整形外科領域の外傷だけでなく、三次救急対応による外傷センターでの多発外傷や高エネルギー外傷などの症例が多く経験できる。

②整形外科領域のほぼ全ての専門診があるため、より多くの部位・疾患の症例が経験できる。

③整形外科各専門領域での研究・学位取得が可能。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕
入院患者の一般的・全身的な診療とケア、及び一般診療で頻繁に関わる整形外科的疾患への対応、基本的な手術手技の習得、周術期の全身管理などに対応するために、幅広い整形外科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含む研修を実施する。

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 産婦人科　（4週以上）

〔特色〕
①産科では周産期管理、特に分娩介助（経腟分娩、帝王切開管理）、胎児心拍陣痛図（CTG）読影、胎児超音波の基礎的な技能が習得できる。
②婦人科では良性及び悪性腫瘍の手術助手、開腹手術、腹腔鏡手術、子宮鏡手術の基礎手技、悪性腫瘍患者の化学療法管理、緩和ケア管理を学ぶことができる。
③産婦人科救急（急性腹症、異常子宮出血、卵巣茎捻転、異所性妊娠、卵巣出血、月経困難症、PIDなど）における初期対応を研修できる。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕
産婦人科を選択科目とした場合は、頻繁に遭遇する産婦人科疾患、産婦人科救急の対応等を習得することに加えて、将来、産婦人科医専門医を目指す上で必須となる基本手技を学び、体得することを目指す。

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 小児科　（4 週以上）

〔特色〕
① 新生児から思春期まであらゆる年齢層の患者に接することで、小児の診療に慣れることができる。
② 小児救急において、患者の状態を適切に把握しトリアージする能力を身につけることができる。
③ common disease から専門的な疾患まで、幅広い疾患を経験できる。
④ 小児診療におけるさまざまな手技を習得できる。
⑤ 健診や思春期診療を通じて、成育医療の考え方を身につけることができる。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕
小児の心理・社会的側面に配慮しつつ、新生児期から思春期までの各発達段階に応じた総合的な診療を行うために、幅広い小児科疾患に対する診療を行う病棟・外来研修を含む研修を実施する。さらに、健診、思春期・移行期医療の研修を通じて、成育医療について学ぶ。

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 眼　科　（4 週以上）

〔特色〕
視覚システムを理解し、眼科的診察の基礎を習得できる。また、眼科的検査、眼疾患の診断、手術を含めた治療法などを学び、診療に参加、実践することが可能。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕
外来・入院患者の眼科的診療とケア、および一般診療において頻繁にかかわる感ができ疾患への対応をするために、幅広い眼科的疾患に対する診療を行う病棟研修を含む研修を実施する。

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 耳鼻咽喉科　（4 週以上）

〔特色〕
耳鼻咽喉科的疾患の診断・治療に関する専門知識ならびに主義を習得できる。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕
一般的診療において頻繁にかかわる耳鼻咽喉科的疾患への対応、基本的な手技の習得、周術期の管理などに対応するために、幅広い耳鼻咽喉科的疾患に対する診療を病棟研修を通じて行う。

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 皮膚科　（4 週以上）

〔特色〕

・皮膚科医はもちろん、他科にすすむ研修医にも必要な皮疹の診断、処置、治療を習得できる。
・皮膚悪性腫瘍の手術を含む集学的治療、重症感染症・広範囲熱傷等の外科的処置、急性期対応も経験できる。
・乾癬、アトピー性皮膚炎、化膿性汗腺炎に対する生物学的製剤の使用症例を経験できる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

入院患者および外来患者の一般的な皮膚科診療に対応できるように、病棟・外来研修を実施する。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 泌尿器科　（4 週以上）

〔特色〕

尿路管理への対応は、内科系外科系を問わず全医師に必須である。当科では尿路管理について専門的な見地から知識と技術を習得できる。そのほか、尿路結石、腎盂腎炎、急性陰嚢症（精索捻転を含む）等の泌尿器科救急疾患への対応も学ぶことができる。
泌尿器科専攻を考慮している方には、将来の専門研修を見据えて、悪性腫瘍や排尿障害・尿路結石・男性不妊症等に対する集学的治療（手術、薬物療法等）について学ぶことができる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

尿路関連症候を呈する患者に対応し、泌尿器科専門診療を実施するために、病棟・手術室・一部外来研修を実施する。希望者は救急対応の経験も可能である。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 精神神経科　（4 週以上）

〔特色〕

精神科の病棟を中心に主な精神疾患の患者を実際に診察し、精神症状の診察方法、初回面接を含む面接技法、カルテ記載、アセスメント、薬物療法の基本について習得できる。他科において身体症状に基づく精神症状（せん妄など）の診察方法、基本的介入法を学ぶことができる。
精神科の入院は2か月にわたることも多いため、4週以上の研修を行うことにより、1症例について入院から退院まで経験することも可能となる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

急性期病棟での指導医のもとでの診療、さらに精神科リエゾンチームでの研修を通して、精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対し全人的に対応できる能力を養う。
希望により外来新患の診察の研修も可能である。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 放射線科　（4 週以上）

〔特色〕

①CTやMRIを中心とした全身の画像診断の基本について学ぶことができる。
②IVR（画像下治療）に関しての全般的な知識、基本的手技について学ぶことが可能。
③放射線治療の基本的知識について学ぶことが可能。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

幅広い疾患の画像診断能力を身につけるために、CT や MRI 検査を中心とした読影研修を行う。救急疾患を含めた IVR（画像下治療）の概要や適応、手技を学ぶため IVR に参加する。放射線治療の概要や適応等について学ぶため、放射線治療外来及び放射線治療計画業務を主とした研修を実施する。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 脳神経外科　（4週以上）

〔特色〕

①脳神経外科患者の患者における神経所見のとり方を習得。

②CT、MRI、脳血管造影などの画像所見を正確に評価し、治療方針の検討に参加。

③重症患者や、術後患者の全身管理を学ぶことができる。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

神経所見の速やかな診察や頭部を中心とした画像検査の診断能力を身につけ、エビデンスに基づいた治療方針の検討に参加いただきます。脳卒中や頭部外傷などの救急疾患では、救急外来での対応から、治療の選択、また、開頭手術、脳血管治療、神経内視鏡手術などの手術への参加など、脳神経外科手術を経験できる。この他に、脳神経内科、放射線科などとの連携により、脳神経疾患の内科的治療や、脳神経疾患の放射線治療についても、学ぶことができる。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 麻酔科　（4 週以上）

〔特色〕

周術期管理を通して、麻酔科医としての専門知識、手技（気道確保、呼吸・循環管理、疼痛管理等）を習得できる。また、希望者は集中治療室での研修も可能。

〔目標〕

医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕

手術患者の周術期管理を通じて、気管挿管を含む気道管理および呼吸管理、急性期の輸液、輸血療法、並びに血行動態管理法、疼痛管理についての研修を含む。

〔評価〕

PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## リハビリテーション科　（4週以上）

〔特色〕

リハビリテーション科医としての専門知識、各種疾患や障害の評価、リハビリテーション計画立案、リハビリテーション治療についての知識と技能、関連社会制度や地域医療との関係など、社会生活の支援に必要な幅広い考え方や知識を習得できる。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り

〔方略〕
リハビリテーション医療を必要とする入院患者に対して、障害を可能な限り減らし、残された能力を最大限に引き出して、社会生活への復帰と維持の目標達成に対応するために多職種連携によるチーム医療での評価を含めたリハビリテーション治療の実践を含む研修を行う。

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 形成外科　（4 週以上）

〔特色〕
主として先天異常、顔面外傷、難治性足潰瘍、乳房再建、眼瞼下垂、皮膚腫瘍などを中心に多くの外科手技と手術経験を積むことが可能。特に高度救急救命センターを有するため顔面・四肢の軟部組織損傷や顔面骨骨折など多くの外傷患者の治療に携わることができる。
大学院に進学して創傷治癒や再生医療に関する研究を行い学位取得が可能。また、研修終了後には海外・国内留学も可能。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕
一般診療に置いて頻繁に関わる外科的疾患や外傷・慢性創傷への対応、基本的な外科手技の習得、周術期の全身管理などに対応するために、幅広い外科的疾患に対する診療を行う病棟研修および救急初期対応を含む研修を実施する。また、褥瘡対策チームの多職種連携・チーム医療や他科との合同再建手術などの診療を経験する。

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 救急部門　（4 週以上）

〔特色〕
年齢、性別、傷病種類、受診手段を問わず、多様な緊急度と重症度を有する傷病者の初期評価、必要に応じた蘇生処置、臨床推論、初期診断、治療を経験することができる。

〔目標〕
医師臨床研修ガイドライン-2024年度版年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕
救命救急センターは、外来・入院診療を通じたon-the-job-training、定期的なShort lecture、

抄読会等が研修方略である。重症病態の初期診療と入院後の集中治療にチームの一員として参加し、指導医のもとで緊急処置を経験し、集中治療管理法の基本を習得する。また災害時の院内対応に係る知識と技能を習得する。
外来における初期診療では、必修科目の方略のほか、希望に応じて関連する他の組織や仕組み（救急搬送に係るメディカルコントロール体制、電話救急相談（#7119）、緊急往来等）に係る研修機会を設ける。また、指導のもと同時複数患者の診療マネジメント習得のためのリーダー業務を経験する。

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 緩和ケア内科　（4 週以上）

〔特色〕
生命を脅かす疾患を持つ患者とその家族が抱える全人的な苦痛を評価し対処するための、基本的な知識を習得できる。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕
緩和ケアの対象患者が抱える様々な苦痛に対応するために、生命を脅かす疾患を持つ患者に対する診療を行う病棟研修を含む研修を実施する。

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 病理診断科　（4 週以上）

〔特色〕
① 病理組織診断に関する全般的事項について習得できる。
② 病理検体を用いた疾患の病態や原因に関する研究、学会での発表が可能。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕
以下の 3 点を中心に、病理医を目指す者にとっては、専門研修の足掛かりとなり、また他科を目指す者にとっては、各臓器疾患の深い理解につながることを目的とする研修を行う。
1）病理検体の切り出し（見学含む）
2）諸臓器の病理検体の組織診断（下書き）
3）病理解剖の見学

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 感染制御部　(4 週以上)

〔特色〕
抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の一員として、血液培養陽性症例などについて自ら情報収集して討議を行うことによって、臨床推論のスキルを養い、感染症の症例に関する考え方の基本を身につけることができる。
また、感染対策チーム(ICT)の一員として、どの医療従事者も身につけておくべき感染対策に関する考え方の基本を身につけることができる。
多職種が連携して業務を行っており、チーム医療の実践の現場を体感できる。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り

〔方略〕
4週間のプログラムを基本とし、ASTの活動とICTの活動の比率は個人で選択する形となる。両活動とも毎日新規の検討事項があり、それらへの対処方法を学び、さらにその後のフォローを行う。

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 臨床検査科　(4 週以上)

〔特色〕
チーム医療としての臨床検査について、検査ユーザーのみならず検査プロバイダとしての体験が得られ、医療機関内での臨床検査について知見を深めることができる。
実地技能習得としては、主として超音波検査をはじめとする各種生理機能検査の習得を行う。

〔目標〕
医師臨床研修指導ガイドライン-2024年度版-に記載されている到達目標の通り。

〔方略〕
施設内での臨床検査全般について、コンサルタント業務運用を理解し関与することを目指す。実地技能習得としては、各種超音波検査の研修を行う。

〔評価〕
PG-EPOC に基づき、研修実施を記録し、評価を行う。

経験可能な項目については、別途参照

## 基礎医学　※基礎コースのみ

基礎研究コース概要

| | |
|---|---|
| 生理学 | 「生理学・脳神経科学」では、生涯にわたり変化する神経回路の働きとそれを支える脳内恒常性を、神経可塑性と神経変性に注目して分子レベルから個体レベルまで統合的に理解することを目指す。自ら問題を発見して、電気生理、イメージング、神経回路トレーシング、分子細胞生物学、行動解析と多角的な手法を駆使して問題を解決する能力を備えた、国際発信力のある基礎研究医を育てる。 |
| 生化学 | 当講座のメインテーマである、老化、がん、内分泌代謝研究を通して、広く難病に病態解明、および予防に結ぶつく治療法の開発を目指した研究に従事する。将来的に自身による基礎医学研究、さらにトランスレーショナルリサーチ（基礎研究から臨床への橋渡し研究）を遂行する能力を培うことを目的とする。生化学、分子生物学、組織学的手法を用いて、培養細胞、マウス実験を中心に、これらに精通している指導教員と共に行う。具体的には、がん、糖尿病や脂質異常症、異所性ホルモン産腫瘍、骨粗鬆症、感染症やうつ病など老化関連性疾患をターゲットにする。バイオインフォマテイクスやデータサイエンスも積極的に学んでいく。 |
| 病理学 | 病理学コース：病理学全般について研究対象としているが、特に腫瘍病理学の研究に携わる。腫瘍組織の観察に留まらず、タンパク質発現、遺伝子発現、遺伝子異常の検索を行い、腫瘍の発生、進展のメカニズムを解明する。対象は消化管、呼吸器、婦人科などで、指導医や技師と共に、研修期間内に一定の成果を求めて研究を進める。 |
| 薬理学 | 薬理学講座においては、原則、臨床研修2年次に16週の必修期間と4～8週の選択研修期間を設けて基礎研究を行う。研究テーマは、研修医の希望を考慮し決定する。研究には、当講座内の機器に加え、中央機器・RI室、中央実験動物施設、および関連施設（先端総合研究機構）などがあり、研修に十分な研究環境を備えている。 |
| 公衆衛生学 | 岩手県大迫町住民を対象に高血圧・循環器疾患を中心として生活習慣・遺伝要因から心理社会的因子まで幅広い要因との関連分析を継続しているコホート研究である大迫研究、全国300地区から無作為抽出された日本国民を代表する集団20000人の追跡調査であるNIPPON DATA研究等、生活習慣病に関する複数の疫学研究および関連する国際共同研究への参加を通じ、疫学研究のデザイン・データ収集・データベース作成・統計解析・論文化までを総合的に研鑽可能な環境に整えている。 |

# 経験可能な項目

診療科名（グループ名）

内科（必修）

当該診療科の研修期間中に

◎　ほぼ経験できる

○　症例によっては経験できる

## 経験すべき症候　−29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ◎ |
| 3 | 発疹 | ○ |
| 4 | 黄疸 | ○ |
| 5 | 発熱 | ◎ |
| 6 | もの忘れ | ◎ |
| 7 | 頭痛 | ○ |
| 8 | めまい | ○ |
| 9 | 意識障害・失神 | ◎ |
| 10 | けいれん発作 | ○ |
| 11 | 視力障碍 | ○ |
| 12 | 胸痛 | ○ |
| 13 | 心停止 | ○ |
| 14 | 呼吸困難 | ◎ |
| 15 | 吐血・喀血 | ○ |
| 16 | 下血・血便 | ○ |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ◎ |
| 18 | 腹痛 | ◎ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ◎ |
| 20 | 熱傷・外傷 | ○ |
| 21 | 腰・背部痛 | ◎ |
| 22 | 関節痛 | ◎ |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ○ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | ○ |
| 25 | 興奮・せん妄 | ◎ |
| 26 | 抑うつ | ○ |
| 27 | 成長・発達の障害 | ○ |
| 28 | 妊娠・出産 | ○ |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態　−26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | ○ |
| 2 | 認知症 | ◎ |
| 3 | 急性冠症候群 | ○ |
| 4 | 心不全 | ◎ |
| 5 | 大動脈瘤 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 6 | 高血圧 | ◎ |
| 7 | 肺癌 | ○ |
| 8 | 肺炎 | ◎ |
| 9 | 急性上気道炎 | ◎ |
| 10 | 気管支喘息 | ○ |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | ○ |
| 12 | 急性胃腸炎 | ◎ |
| 13 | 胃癌 | ○ |
| 14 | 消化性潰瘍 | ○ |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | ○ |
| 16 | 胆石症 | ○ |
| 17 | 大腸癌 | ○ |
| 18 | 腎盂腎炎 | ◎ |
| 19 | 尿路結石 | ○ |
| 20 | 腎不全 | ◎ |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | ○ |
| 22 | 糖尿病 | ◎ |
| 23 | 脂質異常症 | ◎ |
| 24 | うつ病 | ○ |
| 25 | 統合失調症 | ○ |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | ○ |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ○ |
| 3 | 胸骨圧迫 | ○ |
| 4 | 圧迫止血法 | ○ |
| 5 | 包帯法 | ○ |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | ○ |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ○ |
| 10 | 導尿法 | ◎ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ◎ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ○ |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ○ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ○ |
| 16 | 皮膚縫合 | ○ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | ○ |
| 18 | 気管挿管 | ○ |
| 19 | 除細動 | ○ |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | ○ |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ◎ |
| 3 | 心電図の記録 | ◎ |
| 4 | 超音波検査 | ○ |

救急部門

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ◎ |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | ◎ |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | ◎ |
| 8 | めまい | ◎ |
| 9 | 意識障害・失神 | ◎ |
| 10 | けいれん発作 | ◎ |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | ◎ |
| 13 | 心停止 | ◎ |
| 14 | 呼吸困難 | ◎ |
| 15 | 吐血・喀血 | ◎ |
| 16 | 下血・血便 | ◎ |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ◎ |
| 18 | 腹痛 | ◎ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ◎ |
| 20 | 熱傷・外傷 | ◎ |
| 21 | 腰・背部痛 | ◎ |
| 22 | 関節痛 | ○ |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ○ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | ○ |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | ○ |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | ○ |
| 4 | 心不全 | ○ |
| 5 | 大動脈瘤 | ○ |
| 6 | 高血圧 | ◎ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | ◎ |
| 9 | 急性上気道炎 | ◎ |
| 10 | 気管支喘息 | ○ |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | ○ |
| 12 | 急性胃腸炎 | ◎ |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | ○ |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | ○ |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | ○ |
| 19 | 尿路結石 | ○ |
| 20 | 腎不全 | ○ |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | ◎ |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ◎ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ◎ |
| 3 | 胸骨圧迫 | ◎ |
| 4 | 圧迫止血法 | ○ |
| 5 | 包帯法 | ○ |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | ○ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ○ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ○ |
| 16 | 皮膚縫合 | ○ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | ○ |
| 18 | 気管挿管 | ○ |
| 19 | 除細動 | ◎ |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | ○ |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ◎ |
| 3 | 心電図の記録 | ◎ |
| 4 | 超音波検査 | ◎ |

外科（必修）

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | ○ |
| 4 | 黄疸 | ○ |
| 5 | 発熱 | ○ |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | ○ |
| 8 | めまい | ○ |
| 9 | 意識障害・失神 | ○ |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | ○ |
| 14 | 呼吸困難 | ○ |
| 15 | 吐血・喀血 | ○ |
| 16 | 下血・血便 | ○ |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ○ |
| 18 | 腹痛 | ○ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ○ |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ○ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | ○ |
| 25 | 興奮・せん妄 | ○ |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | ○ |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | ○ |
| 4 | 心不全 | ○ |
| 5 | 大動脈瘤 | ○ |
| 6 | 高血圧 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | ○ |
| 8 | 肺炎 | ○ |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | ○ |
| 12 | 急性胃腸炎 | ○ |
| 13 | 胃癌 | ○ |
| 14 | 消化性潰瘍 | ○ |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | ○ |
| 16 | 胆石症 | ○ |
| 17 | 大腸癌 | ○ |
| 18 | 腎盂腎炎 | ○ |
| 19 | 尿路結石 | ○ |
| 20 | 腎不全 | ○ |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | ○ |
| 23 | 脂質異常症 | ○ |
| 24 | うつ病 | ○ |
| 25 | 統合失調症 | ○ |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | ○ |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ○ |
| 3 | 胸骨圧迫 | ○ |
| 4 | 圧迫止血法 | ○ |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ○ |
| 10 | 導尿法 | ○ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ○ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ○ |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ◎ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ○ |
| 16 | 皮膚縫合 | ◎ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | ○ |
| 18 | 気管挿管 | ○ |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ○ |
| 3 | 心電図の記録 | ○ |
| 4 | 超音波検査 | ○ |

産婦人科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | ○ |
| 4 | 黄疸 | ○ |
| 5 | 発熱 | ◎ |
| 6 | もの忘れ | ○ |
| 7 | 頭痛 | ○ |
| 8 | めまい | ○ |
| 9 | 意識障害・失神 | ○ |
| 10 | けいれん発作 | ○ |
| 11 | 視力障碍 | ○ |
| 12 | 胸痛 | ○ |
| 13 | 心停止 | ○ |
| 14 | 呼吸困難 | ○ |
| 15 | 吐血・喀血 | ○ |
| 16 | 下血・血便 | ○ |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ○ |
| 18 | 腹痛 | ◎ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ○ |
| 20 | 熱傷・外傷 | ○ |
| 21 | 腰・背部痛 | ○ |
| 22 | 関節痛 | ○ |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ○ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | ○ |
| 25 | 興奮・せん妄 | ○ |
| 26 | 抑うつ | ○ |
| 27 | 成長・発達の障害 | ○ |
| 28 | 妊娠・出産 | ◎ |
| 29 | 終末期の症候 | ◎ |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | ○ |
| 2 | 認知症 | ○ |
| 3 | 急性冠症候群 | ○ |
| 4 | 心不全 | ○ |
| 5 | 大動脈瘤 | ○ |
| 6 | 高血圧 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | ○ |
| 8 | 肺炎 | ○ |
| 9 | 急性上気道炎 | ○ |
| 10 | 気管支喘息 | ○ |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | ○ |
| 12 | 急性胃腸炎 | ○ |
| 13 | 胃癌 | ○ |
| 14 | 消化性潰瘍 | ○ |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | ○ |
| 16 | 胆石症 | ○ |
| 17 | 大腸癌 | ○ |
| 18 | 腎盂腎炎 | ○ |
| 19 | 尿路結石 | ○ |
| 20 | 腎不全 | ○ |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | ○ |
| 22 | 糖尿病 | ○ |
| 23 | 脂質異常症 | ○ |
| 24 | うつ病 | ○ |
| 25 | 統合失調症 | ○ |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | ○ |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ○ |
| 3 | 胸骨圧迫 | ○ |
| 4 | 圧迫止血法 | ○ |
| 5 | 包帯法 | ○ |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ○ |
| 8 | 腰椎穿刺 | ○ |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ◎ |
| 10 | 導尿法 | ○ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ○ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ○ |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ○ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ○ |
| 16 | 皮膚縫合 | ◎ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | ○ |
| 18 | 気管挿管 | ○ |
| 19 | 除細動 | ○ |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | ○ |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ○ |
| 3 | 心電図の記録 | ○ |
| 4 | 超音波検査 | ◎ |

小児科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | ◎ |
| 4 | 黄疸 | ◎ |
| 5 | 発熱 | ◎ |
| 6 | もの忘れ | ○ |
| 7 | 頭痛 | ◎ |
| 8 | めまい | ○ |
| 9 | 意識障害・失神 | ○ |
| 10 | けいれん発作 | ◎ |
| 11 | 視力障碍 | ○ |
| 12 | 胸痛 | ○ |
| 13 | 心停止 | ○ |
| 14 | 呼吸困難 | ◎ |
| 15 | 吐血・喀血 | ○ |
| 16 | 下血・血便 | ○ |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ◎ |
| 18 | 腹痛 | ◎ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ◎ |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | ○ |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ○ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | ○ |
| 25 | 興奮・せん妄 | ○ |
| 26 | 抑うつ | ○ |
| 27 | 成長・発達の障害 | ◎ |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | ○ |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | ○ |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | ○ |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | ◎ |
| 9 | 急性上気道炎 | ◎ |
| 10 | 気管支喘息 | ◎ |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | ◎ |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | ○ |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | ○ |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | ○ |
| 19 | 尿路結石 | ○ |
| 20 | 腎不全 | ○ |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | ○ |
| 23 | 脂質異常症 | ○ |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ○ |
| 3 | 胸骨圧迫 | ○ |
| 4 | 圧迫止血法 | ○ |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | ○ |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ○ |
| 10 | 導尿法 | ○ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ○ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ◎ |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ○ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | ○ |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | ○ |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ◎ |
| 3 | 心電図の記録 | ◎ |
| 4 | 超音波検査 | ○ |

精神神経科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | ○ |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | |
| 6 | もの忘れ | ◎ |
| 7 | 頭痛 | ○ |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | ◎ |
| 10 | けいれん発作 | ○ |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | ○ |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ○ |
| 18 | 腹痛 | ○ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ○ |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | ○ |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ○ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | ◎ |
| 26 | 抑うつ | ◎ |
| 27 | 成長・発達の障害 | ○ |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | ○ |
| 2 | 認知症 | ◎ |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | ◎ |
| 25 | 統合失調症 | ◎ |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | ○ |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | |
| 8 | 腰椎穿刺 | ○ |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | |

総合内科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ◎ |
| 3 | 発疹 | ○ |
| 4 | 黄疸 | ○ |
| 5 | 発熱 | ◎ |
| 6 | もの忘れ | ◎ |
| 7 | 頭痛 | ○ |
| 8 | めまい | ○ |
| 9 | 意識障害・失神 | ◎ |
| 10 | けいれん発作 | ○ |
| 11 | 視力障碍 | ○ |
| 12 | 胸痛 | ○ |
| 13 | 心停止 | ○ |
| 14 | 呼吸困難 | ◎ |
| 15 | 吐血・喀血 | ○ |
| 16 | 下血・血便 | ○ |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ◎ |
| 18 | 腹痛 | ◎ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ◎ |
| 20 | 熱傷・外傷 | ○ |
| 21 | 腰・背部痛 | ◎ |
| 22 | 関節痛 | ◎ |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ○ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | ○ |
| 25 | 興奮・せん妄 | ◎ |
| 26 | 抑うつ | ○ |
| 27 | 成長・発達の障害 | ○ |
| 28 | 妊娠・出産 | ○ |
| 29 | 終末期の症候 | ◎ |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | ○ |
| 2 | 認知症 | ◎ |
| 3 | 急性冠症候群 | ○ |
| 4 | 心不全 | ◎ |
| 5 | 大動脈瘤 | ○ |
| 6 | 高血圧 | ◎ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | ○ |
| 8 | 肺炎 | ◎ |
| 9 | 急性上気道炎 | ◎ |
| 10 | 気管支喘息 | ○ |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | ○ |
| 12 | 急性胃腸炎 | ◎ |
| 13 | 胃癌 | ○ |
| 14 | 消化性潰瘍 | ○ |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | ○ |
| 16 | 胆石症 | ○ |
| 17 | 大腸癌 | ○ |
| 18 | 腎盂腎炎 | ◎ |
| 19 | 尿路結石 | ○ |
| 20 | 腎不全 | ◎ |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | ○ |
| 22 | 糖尿病 | ◎ |
| 23 | 脂質異常症 | ◎ |
| 24 | うつ病 | ○ |
| 25 | 統合失調症 | ○ |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | ○ |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ○ |
| 3 | 胸骨圧迫 | ○ |
| 4 | 圧迫止血法 | ○ |
| 5 | 包帯法 | ○ |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | ○ |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ○ |
| 10 | 導尿法 | ◎ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ◎ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ◎ |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ○ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ○ |
| 16 | 皮膚縫合 | ○ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | ○ |
| 18 | 気管挿管 | ○ |
| 19 | 除細動 | ○ |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | ○ |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ◎ |
| 3 | 心電図の記録 | ◎ |
| 4 | 超音波検査 | ○ |

腎臓内科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | ○ |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | ◎ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | ○ |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | ◎ |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | |

血液内科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | ○ |
| 4 | 黄疸 | ○ |
| 5 | 発熱 | ◎ |
| 6 | もの忘れ | ○ |
| 7 | 頭痛 | ○ |
| 8 | めまい | ○ |
| 9 | 意識障害・失神 | ○ |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | ○ |
| 14 | 呼吸困難 | ○ |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | ○ |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ○ |
| 18 | 腹痛 | ○ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ◎ |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | ○ |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ○ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | ○ |
| 25 | 興奮・せん妄 | ○ |
| 26 | 抑うつ | ○ |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | ○ |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | ○ |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | ○ |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | ○ |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ○ |
| 3 | 胸骨圧迫 | ○ |
| 4 | 圧迫止血法 | ◎ |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | ◎ |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ○ |
| 10 | 導尿法 | ○ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ○ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | ◎ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | ◎ |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ◎ |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | |

循環器内科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ◎ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | ◎ |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | ◎ |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | ◎ |
| 13 | 心停止 | ◎ |
| 14 | 呼吸困難 | ◎ |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | ○ |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | ○ |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | ○ |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | ◎ |
| 4 | 心不全 | ◎ |
| 5 | 大動脈瘤 | ◎ |
| 6 | 高血圧 | ◎ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | ○ |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | ◎ |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | ◎ |
| 23 | 脂質異常症 | ◎ |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ○ |
| 3 | 胸骨圧迫 | ○ |
| 4 | 圧迫止血法 | ○ |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ○ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ○ |
| 10 | 導尿法 | ○ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ◎ |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ○ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | ○ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | ○ |
| 19 | 除細動 | ○ |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ◎ |
| 3 | 心電図の記録 | ◎ |
| 4 | 超音波検査 | ◎ |

消化器内科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | ○ |
| 5 | 発熱 | ◎ |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | ○ |
| 16 | 下血・血便 | ○ |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ◎ |
| 18 | 腹痛 | ◎ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ○ |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | ○ |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | ○ |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | ○ |
| 13 | 胃癌 | ○ |
| 14 | 消化性潰瘍 | ○ |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | ○ |
| 16 | 胆石症 | ○ |
| 17 | 大腸癌 | ○ |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ○ |
| 10 | 導尿法 | ○ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ○ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ○ |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ○ |
| 3 | 心電図の記録 | ○ |
| 4 | 超音波検査 | ◎ |

呼吸器・アレルギー内科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | ○ |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | ○ |
| 13 | 心停止 | ○ |
| 14 | 呼吸困難 | ◎ |
| 15 | 吐血・喀血 | ○ |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | ◎ |
| 8 | 肺炎 | ◎ |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | ◎ |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | ◎ |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ○ |
| 3 | 胸骨圧迫 | ○ |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ○ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ○ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ○ |
| 10 | 導尿法 | ○ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ○ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ○ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | ○ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | ○ |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | ○ |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ◎ |
| 3 | 心電図の記録 | ○ |
| 4 | 超音波検査 | |

腫瘍内科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ◎ |
| 3 | 発疹 | ◎ |
| 4 | 黄疸 | ◎ |
| 5 | 発熱 | ◎ |
| 6 | もの忘れ | ○ |
| 7 | 頭痛 | ◎ |
| 8 | めまい | ◎ |
| 9 | 意識障害・失神 | ◎ |
| 10 | けいれん発作 | ○ |
| 11 | 視力障碍 | ○ |
| 12 | 胸痛 | ○ |
| 13 | 心停止 | ○ |
| 14 | 呼吸困難 | ◎ |
| 15 | 吐血・喀血 | ◎ |
| 16 | 下血・血便 | ◎ |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ◎ |
| 18 | 腹痛 | ◎ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ◎ |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | ◎ |
| 22 | 関節痛 | ○ |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ○ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | ○ |
| 25 | 興奮・せん妄 | ◎ |
| 26 | 抑うつ | ◎ |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | ◎ |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | ○ |
| 2 | 認知症 | ○ |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | ◎ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | ◎ |
| 8 | 肺炎 | ◎ |
| 9 | 急性上気道炎 | ○ |
| 10 | 気管支喘息 | ○ |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | ◎ |
| 12 | 急性胃腸炎 | ◎ |
| 13 | 胃癌 | ◎ |
| 14 | 消化性潰瘍 | ○ |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | ○ |
| 16 | 胆石症 | ○ |
| 17 | 大腸癌 | ◎ |
| 18 | 腎盂腎炎 | ○ |
| 19 | 尿路結石 | ○ |
| 20 | 腎不全 | ◎ |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | ◎ |
| 23 | 脂質異常症 | ○ |
| 24 | うつ病 | ○ |
| 25 | 統合失調症 | ○ |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ○ |
| 3 | 胸骨圧迫 | ○ |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | ○ |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ◎ |
| 10 | 導尿法 | ◎ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ◎ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ◎ |
| 13 | 局所麻酔 | ◎ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ◎ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ○ |
| 16 | 皮膚縫合 | ○ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | ○ |
| 19 | 除細動 | ○ |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | ○ |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ◎ |
| 3 | 心電図の記録 | ◎ |
| 4 | 超音波検査 | ◎ |

脳神経内科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | ○ |
| 6 | もの忘れ | ◎ |
| 7 | 頭痛 | ◎ |
| 8 | めまい | ◎ |
| 9 | 意識障害・失神 | ◎ |
| 10 | けいれん発作 | ○ |
| 11 | 視力障碍 | ○ |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | ○ |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ○ |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ○ |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | ○ |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ◎ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | ◎ |
| 25 | 興奮・せん妄 | ○ |
| 26 | 抑うつ | ○ |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | ○ |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | ◎ |
| 2 | 認知症 | ◎ |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | ○ |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ○ |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | ◎ |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | ○ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ○ |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ◎ |
| 3 | 心電図の記録 | ○ |
| 4 | 超音波検査 | ○ |

上部消化器官外科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | ○ |
| 4 | 黄疸 | ○ |
| 5 | 発熱 | ○ |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | ○ |
| 14 | 呼吸困難 | ○ |
| 15 | 吐血・喀血 | ○ |
| 16 | 下血・血便 | ○ |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ○ |
| 18 | 腹痛 | ◎ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ○ |
| 20 | 熱傷・外傷 | ○ |
| 21 | 腰・背部痛 | ○ |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | ○ |
| 26 | 抑うつ | ○ |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | ○ |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | ○ |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | ○ |
| 9 | 急性上気道炎 | ○ |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | ○ |
| 12 | 急性胃腸炎 | ○ |
| 13 | 胃癌 | ◎ |
| 14 | 消化性潰瘍 | ○ |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | ○ |
| 16 | 胆石症 | ○ |
| 17 | 大腸癌 | ○ |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | ○ |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | ○ |
| 23 | 脂質異常症 | ○ |
| 24 | うつ病 | ○ |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ○ |
| 3 | 胸骨圧迫 | ○ |
| 4 | 圧迫止血法 | ◎ |
| 5 | 包帯法 | ○ |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ◎ |
| 10 | 導尿法 | ◎ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ◎ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ◎ |
| 13 | 局所麻酔 | ◎ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ◎ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ◎ |
| 16 | 皮膚縫合 | ◎ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | ○ |
| 18 | 気管挿管 | ○ |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ◎ |
| 3 | 心電図の記録 | ○ |
| 4 | 超音波検査 | ○ |

下部消化器官外科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | ○ |
| 4 | 黄疸 | ○ |
| 5 | 発熱 | ○ |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | ○ |
| 8 | めまい | ○ |
| 9 | 意識障害・失神 | ○ |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | ○ |
| 14 | 呼吸困難 | ○ |
| 15 | 吐血・喀血 | ○ |
| 16 | 下血・血便 | ○ |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ○ |
| 18 | 腹痛 | ○ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ○ |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ○ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | ○ |
| 25 | 興奮・せん妄 | ○ |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | ○ |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | ○ |
| 4 | 心不全 | ○ |
| 5 | 大動脈瘤 | ○ |
| 6 | 高血圧 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | ○ |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | ○ |
| 12 | 急性胃腸炎 | ○ |
| 13 | 胃癌 | ○ |
| 14 | 消化性潰瘍 | ○ |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | ○ |
| 16 | 胆石症 | ○ |
| 17 | 大腸癌 | ◎ |
| 18 | 腎盂腎炎 | ○ |
| 19 | 尿路結石 | ○ |
| 20 | 腎不全 | ○ |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | ○ |
| 23 | 脂質異常症 | ○ |
| 24 | うつ病 | ○ |
| 25 | 統合失調症 | ○ |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | ○ |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ○ |
| 3 | 胸骨圧迫 | ○ |
| 4 | 圧迫止血法 | ○ |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ○ |
| 10 | 導尿法 | ◎ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ◎ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ◎ |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ◎ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ◎ |
| 16 | 皮膚縫合 | ◎ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | ○ |
| 18 | 気管挿管 | ○ |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ○ |
| 3 | 心電図の記録 | ○ |
| 4 | 超音波検査 | ○ |

肝胆膵外科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | ◎ |
| 5 | 発熱 | ◎ |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | ◎ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ◎ |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | ○ |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | ○ |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | ◎ |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | ◎ |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ○ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ○ |
| 10 | 導尿法 | ◎ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ◎ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ◎ |
| 13 | 局所麻酔 | |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ◎ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ◎ |
| 16 | 皮膚縫合 | ○ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | ○ |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ○ |
| 3 | 心電図の記録 | ○ |
| 4 | 超音波検査 | ○ |

呼吸器外科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | ◎ |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | ◎ |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | ◎ |
| 8 | 肺炎 | ◎ |
| 9 | 急性上気道炎 | ○ |
| 10 | 気管支喘息 | ○ |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | ◎ |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ○ |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | ◎ |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ◎ |
| 10 | 導尿法 | ◎ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ◎ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ◎ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ◎ |
| 16 | 皮膚縫合 | ◎ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | ○ |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ◎ |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | |

乳腺外科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | ○ |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | ○ |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ○ |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | ○ |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | ◎ |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ○ |
| 10 | 導尿法 | ◎ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ◎ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | ◎ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ◎ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ○ |
| 16 | 皮膚縫合 | ◎ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | ◎ |

小児外科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | ○ |
| 5 | 発熱 | ◎ |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | ◎ |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ◎ |
| 18 | 腹痛 | ◎ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ◎ |
| 20 | 熱傷・外傷 | ○ |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | ◎ |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | ○ |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | ○ |
| 16 | 胆石症 | ○ |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ○ |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | ○ |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ○ |
| 10 | 導尿法 | ◎ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ◎ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ◎ |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ◎ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ○ |
| 16 | 皮膚縫合 | ◎ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | ○ |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | ○ |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ○ |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | ◎ |

外科（ACS）

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | |

心臓血管外科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ◎ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | ◎ |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | ○ |
| 10 | けいれん発作 | ○ |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | ◎ |
| 13 | 心停止 | ○ |
| 14 | 呼吸困難 | ○ |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | ○ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | ○ |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ○ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | ○ |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | ◎ |
| 4 | 心不全 | ◎ |
| 5 | 大動脈瘤 | ◎ |
| 6 | 高血圧 | ◎ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | ○ |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | ○ |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | ◎ |
| 23 | 脂質異常症 | ◎ |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ◎ |
| 3 | 胸骨圧迫 | ○ |
| 4 | 圧迫止血法 | ○ |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ○ |
| 10 | 導尿法 | ◎ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ◎ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ○ |
| 13 | 局所麻酔 | ◎ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ◎ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ○ |
| 16 | 皮膚縫合 | ◎ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | ◎ |
| 19 | 除細動 | ○ |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ◎ |
| 3 | 心電図の記録 | ○ |
| 4 | 超音波検査 | ○ |

整形外科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | ○ |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | ○ |
| 21 | 腰・背部痛 | ◎ |
| 22 | 関節痛 | ◎ |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ◎ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | ○ |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | ○ |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | ○ |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | ◎ |
| 22 | 糖尿病 | ○ |
| 23 | 脂質異常症 | ○ |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | ◎ |
| 5 | 包帯法 | ◎ |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | ○ |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | ◎ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ◎ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | ◎ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ◎ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ○ |
| 16 | 皮膚縫合 | ◎ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | ◎ |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | ○ |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ○ |
| 3 | 心電図の記録 | ○ |
| 4 | 超音波検査 | ◎ |

眼科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | ○ |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | ◎ |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ○ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | ◎ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | ○ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | |

耳鼻咽喉科

当該診療科の研修期間中に

◎　ほぼ経験できる

○　症例によっては経験できる

## 経験すべき症候　−29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | ◎ |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | ○ |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態　−26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | ◎ |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ○ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ○ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ○ |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ○ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ○ |
| 16 | 皮膚縫合 | ○ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | ○ |

皮膚科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | ◎ |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | ◎ |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | ◎ |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ○ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ○ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ◎ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ○ |
| 16 | 皮膚縫合 | ○ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | ◎ |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | |

泌尿器科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | ○ |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | ◎ |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | ◎ |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | ○ |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | ○ |
| 19 | 尿路結石 | ◎ |
| 20 | 腎不全 | ○ |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ○ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ○ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | ◎ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ◎ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ○ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ○ |
| 16 | 皮膚縫合 | ○ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | ○ |

放射線科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | ○ |
| 5 | 発熱 | ○ |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | ○ |
| 16 | 下血・血便 | ○ |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | ○ |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | ○ |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | ○ |
| 14 | 消化性潰瘍 | ○ |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | ○ |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | ○ |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | ○ |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ○ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | ○ |
| 10 | 導尿法 | |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | ○ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | |

脳神経外科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | |
| 6 | もの忘れ | ○ |
| 7 | 頭痛 | ◎ |
| 8 | めまい | ○ |
| 9 | 意識障害・失神 | ○ |
| 10 | けいれん発作 | ○ |
| 11 | 視力障碍 | ○ |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ○ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | ◎ |
| 2 | 認知症 | ○ |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ○ |
| 8 | 腰椎穿刺 | ○ |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | ◎ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ◎ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | ◎ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | |

麻酔科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | ○ |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | ○ |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | ◎ |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | ◎ |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | ○ |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ○ |
| 13 | 局所麻酔 | ○ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | ◎ |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | ◎ |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | ○ |

リハビリテーション科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ◎ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | ○ |
| 2 | 認知症 | ○ |
| 3 | 急性冠症候群 | ○ |
| 4 | 心不全 | ○ |
| 5 | 大動脈瘤 | ○ |
| 6 | 高血圧 | ○ |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | ○ |
| 8 | 肺炎 | ○ |
| 9 | 急性上気道炎 | ○ |
| 10 | 気管支喘息 | ○ |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | ○ |
| 12 | 急性胃腸炎 | ○ |
| 13 | 胃癌 | ○ |
| 14 | 消化性潰瘍 | ○ |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | ○ |
| 16 | 胆石症 | ○ |
| 17 | 大腸癌 | ○ |
| 18 | 腎盂腎炎 | ○ |
| 19 | 尿路結石 | ○ |
| 20 | 腎不全 | ○ |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | ○ |
| 22 | 糖尿病 | ○ |
| 23 | 脂質異常症 | ○ |
| 24 | うつ病 | ○ |
| 25 | 統合失調症 | ○ |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | ○ |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | |

形成外科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | ○ |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | ○ |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ○ |
| 20 | 熱傷・外傷 | ○ |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | ○ |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | ◎ |
| 22 | 糖尿病 | ○ |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | ○ |
| 5 | 包帯法 | ◎ |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | ◎ |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | ◎ |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | ◎ |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | ◎ |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | ○ |
| 13 | 局所麻酔 | ◎ |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | ◎ |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | ○ |
| 16 | 皮膚縫合 | ◎ |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | ◎ |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | ○ |

緩和ケア内科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | |
| 2 | 体重減少・るい痩 | ○ |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | ○ |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | ○ |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | ○ |
| 18 | 腹痛 | ○ |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | ○ |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | ○ |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | ○ |
| 26 | 抑うつ | ○ |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | ○ |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | ○ |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | ○ |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | ○ |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | ○ |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | |

病理診断科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | |

感染制御部

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | |
| 4 | 超音波検査 | |

臨床検査科

当該診療科の研修期間中に

◎ ほぼ経験できる

○ 症例によっては経験できる

## 経験すべき症候 −29症候−

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ショック | |
| 2 | 体重減少・るい痩 | |
| 3 | 発疹 | |
| 4 | 黄疸 | |
| 5 | 発熱 | |
| 6 | もの忘れ | |
| 7 | 頭痛 | |
| 8 | めまい | |
| 9 | 意識障害・失神 | |
| 10 | けいれん発作 | |
| 11 | 視力障碍 | |
| 12 | 胸痛 | |
| 13 | 心停止 | |
| 14 | 呼吸困難 | |
| 15 | 吐血・喀血 | |
| 16 | 下血・血便 | |
| 17 | 嘔気・嘔吐 | |
| 18 | 腹痛 | |
| 19 | 便通異常（下痢・便秘） | |
| 20 | 熱傷・外傷 | |
| 21 | 腰・背部痛 | |
| 22 | 関節痛 | |
| 23 | 運動麻痺・筋力低下 | |
| 24 | 排尿障害（尿失禁・排泄困難） | |
| 25 | 興奮・せん妄 | |
| 26 | 抑うつ | |
| 27 | 成長・発達の障害 | |
| 28 | 妊娠・出産 | |
| 29 | 終末期の症候 | |

## 経験すべき疾病・病態 −26疾病・病態−

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 脳血管障害 | |
| 2 | 認知症 | |
| 3 | 急性冠症候群 | |
| 4 | 心不全 | |
| 5 | 大動脈瘤 | |
| 6 | 高血圧 | |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 肺癌 | |
| 8 | 肺炎 | |
| 9 | 急性上気道炎 | |
| 10 | 気管支喘息 | |
| 11 | 慢性閉塞性肺疾患（COPD） | |
| 12 | 急性胃腸炎 | |
| 13 | 胃癌 | |
| 14 | 消化性潰瘍 | |
| 15 | 肝炎・肝硬変 | |
| 16 | 胆石症 | |
| 17 | 大腸癌 | |
| 18 | 腎盂腎炎 | |
| 19 | 尿路結石 | |
| 20 | 腎不全 | |
| 21 | 高エネルギー外傷・骨折 | |
| 22 | 糖尿病 | |
| 23 | 脂質異常症 | |
| 24 | うつ病 | |
| 25 | 統合失調症 | |
| 26 | 依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博） | |
| **臨床手技** | | |
| 1 | 気道確保 | |
| 2 | 人工呼吸（バック・バブル・マスクによる徒手換気を含む。） | |
| 3 | 胸骨圧迫 | |
| 4 | 圧迫止血法 | |
| 5 | 包帯法 | |
| 6 | 採血法（静脈血、動脈血） | |
| 7 | 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保） | |
| 8 | 腰椎穿刺 | |
| 9 | 穿刺法（胸腔、腹腔） | |
| 10 | 導尿法 | |
| 11 | ドレーン・チューブ類の管理 | |
| 12 | 胃管の挿入と管理 | |
| 13 | 局所麻酔 | |
| 14 | 創部消毒とガーゼ交換 | |
| 15 | 簡単な切開・排膿 | |
| 16 | 皮膚縫合 | |
| 17 | 軽度の外傷・熱傷の処置 | |
| 18 | 気管挿管 | |
| 19 | 除細動 | |
| **検査手技** | | |
| 1 | 血液判定・交差適合試験 | |
| 2 | 動脈血ガス分析（動脈採血を含む） | |
| 3 | 心電図の記録 | ◎ |
| 4 | 超音波検査 | ◎ |

# 初期臨床研修医が行う医療行為の規程

## 1. 基準の運用上の留意点

- 原則として研修医が行う、あらゆる医療行為には指導医による実地の指導が必要である。
- AED の使用や胸骨圧迫による心臓マッサージなどの救急救命処置は、この限りではないが、可及的速やかに指導医に確認または立会いを依頼する。
- 研修医が単独で行ってよい医療行為（レベル A）について、同一患者に対し同一の医療行為を行う場合、指導医の許可をその都度得る必要はないが、同一医療行為であっても患者の病状によりそのリスクは変化することから、患者の病状が大きく変化した場合には、再度指導医の許可を得る必要がある。この際、指導医は、患者の病状変化に伴う当該医療行為のリスクを考慮し、研修医に当該医療行為を継続して行わせてよいか否かを検討した上、許可を与える。
- 研修医が単独で行ってよい医療行為（レベル A）であっても、初回実施時は指導医の立会いのもとで実施する。
- 研修医が単独で行ってよい医療行為（レベル A）であっても、単独で実施困難な場合には、指導医の指示を仰ぐ。

## 2. 研修医が行う医療行為の基準

- **研修医が単独で行ってよい医療行為（レベル A）**：研修医が医療行為に習熟するまでは、指導医は実地に指導を行い、患者に過剰な不安を与えず安全に実施できることを確認した上で単独で行うことを許可する。
- **指導医の許可・監査が必要な医療行為（レベル B）**：研修医が医療行為を行うことに関して、指導医による事前の許可・監査、かつ、事後の承認が必要なもの。研修医が医療行為に習熟するまでは、指導医は実地に指導を行い、患者に過剰な不安を与えず安全に実施できることを確認した上で、指導医の立会なくして行うことを許可する。
- **指導医の実地指導が必要な医療行為（レベル C）**：指導医の実地指導がなければ、研修医は行なってはならないもの。
- リストに示されていない医療行為は、全て**指導医の実地指導が必要な医療行為（レベル C）とする。**
- **指導医の実地指導に関する留意点**：指導医の判断に基づき、当該医療行為に熟達した上級医が指導医に代わって指導してもよい。この場合であっても、研修医の行う医療行為は、全て指導医の監督下で行われるものであり、指導医も当該医療行為の責任を負う。

| | | 診察・医療記録 | 内服薬・注射薬の処方 | 注射 | 指導・その他 | 検査 | 処置 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 単独で行ってよい医療行為 | レベルA | • 医療面接<br>• 基本的な身体診察法（泌尿・生殖器の診察、産婦人科の診察、小児の診察を除く）<br>• 直腸診<br>• 耳鏡、鼻鏡、間接喉頭鏡、検眼鏡による診察<br>• 診療録の記載<br>• 診断書の複製 | • 定時処方の継続<br>• 臨時処方の継続<br>• 注射薬の継続処方<br>• 危険性の高い内服薬・注射薬（向精神薬、心血管作動薬、血糖降下薬、抗凝固薬、インスリン）の継続処方<br>• 麻薬（内服薬・注射薬など）の継続処方（麻薬施用者免許取得者のみ可）<br>• 高カロリー輸液の継続処方<br>• 経腸栄養剤の継続処方 | • 皮内注射の実施<br>• 皮下注射の実施（危険性の高い注射薬を除く）<br>• 筋肉注射の実施（危険性の高い注射薬を除く）<br>• 静脈注射の実施（危険性の高い注射薬を除く）<br><br>*危険性の高い注射薬とは、当院の規定するハイリスク薬を指す。 | • 治療食の継続指示<br>• インスリン自己注射指導<br>• 自己血糖測定指導<br>• 輸血に関する説明と同意取得<br>• 造影剤を用いた検査に関する説明と同意取得<br>• 内視鏡検査に関する説明と同意取得<br>• 日常の病状説明（検査値や診断・治療の日程など） | • 血液・尿検査<br>• 各種培養検査<br>• 心電図検査の実施<br>• 単純 X 線撮影の依頼<br>• 超音波検査の依頼<br>• 呼吸機能検査の依頼<br>• 聴力検査の依頼<br>• 平衡感覚検査の依頼<br>• 脳波検査の依頼<br>• 筋電図・神経伝達速度の依頼<br>• 長谷川式簡易知能評価スケール・MMSE の実施<br>• 交叉適合試験の採血 | • 静脈採血（小児を除く）<br>• 動脈穿刺（小児を除く）<br>• 末梢静脈ライン留置<br>• 皮膚の消毒、包帯交換<br>• 外用薬塗布<br>• 抜糸<br>• 導尿（小児を除く）<br>• 圧迫止血<br>• 包帯法<br>• 酸素吸入 |
| 指導医の許可・監査が必要な医療行為 | レベルB | • 泌尿・生殖器の診察<br>• 小児の診察（直腸診を除く）<br>• 紹介状の作成<br>• 診断書の作成<br>• 証明書の作成 | • 定時処方の変更<br>• 退院処方<br>• 新規処方（定時・臨時等）<br>• 注射薬の新規処方や変更<br>• 危険性の高い内服薬・注射薬（向精神薬、心血管作動薬、血糖降下薬、抗凝固薬、インスリン）の新規処方や変更<br>• 内服・注射抗腫瘍薬の処方（新規・継続）<br>• 麻薬（内服薬・注射薬など）の新規処方や変更（麻薬施用者免許取得者のみ可）<br>• 経腸栄養剤の新規処方や変更<br><br>*危険性の高い内服薬・注射薬とは、当院の規定するハイリスク薬を指す。 | • 輸血の依頼・実施<br>• 動脈注射の実施<br>• 硬膜外カテーテルへの薬剤注入<br>• 危険性の高い注射薬（向精神薬、心血管作動薬、抗凝固薬、インスリン）の皮下・筋肉・静脈注射の実施<br>• 抗腫瘍薬の皮下・静脈内注射<br>• 麻薬（注射薬）の皮下・静脈注射の実施 | • 治療食の新規指示や変更<br>• リハビリテーションの処方<br>• リハビリテーション総合実施計画書の記載<br>• 麻酔に関する説明と同意 | • 体表からの超音波検査の実施<br>• CT・MRI の依頼・診断<br>• 核医学検査の依頼・診断<br>• 心電図の診断<br>• 負荷心電図の依頼<br>• 単純 X 線撮影の診断<br>• 各種検査結果の診断<br>• 発達・知能・心理テストの診断<br>• 長谷川式簡易知能評価スケール・MMSE の診断<br>• 鼻腔・喉頭ファイバースコープ（耳鼻科限定） | • 小児の静脈採血<br>• 小児の導尿<br>• 局所浸潤麻酔<br>• 皮下嚢胞、皮下膿瘍の穿刺<br>• 腹腔ドレーン抜去<br>• 胸腔ドレーン抜去<br>• 用手気道確保<br>• 気管内吸引<br>• ネブライザー<br>• バックバルブマスクを用いた人工呼吸<br>• 浣腸（高圧浣腸を除く）<br>• 検査目的の胃管挿入（小児を除く）<br>• 気管カニューレ交換<br>• 胸骨圧迫（心臓マッサージ）<br>• ギプスカット |
| 指導医の実地指導が必要な医療行為 | レベルC | • 産婦人科の診察<br>• 小児の直腸診<br>• 死亡診断書の作成 | | • 関節内注射の実施<br>• 脳室内注射の実施<br>• くも膜下注射（脊髄麻酔を含む）の実施<br>• 硬膜外注射（硬膜外麻酔を含む）の実施 | • 病状説明（病名告知、診断・治療方針、臨床経過の説明など）<br>• 手術に関する説明と同意取得<br>• リハビリテーション総合実施計画書の説明と同意<br>• 治療に関する説明と同意<br>• レベル A・B 以外の検査に関する説明と同意取得<br>• レベル A・B 以外の処置に関する説明と同意取得 | • 負荷心電図の実施<br>• 直腸鏡<br>• 肛門鏡<br>• 上部消化管内視鏡<br>• 下部消化管内視鏡<br>• 気管支鏡<br>• 膀胱鏡<br>• 産婦人科的検査<br>• 消化管造影検査 | • 皮下膿瘍の切開、排膿<br>• 創傷処置・デブリードマン・縫合<br>• 小児の動脈採血<br>• 小児の胃管挿入<br>• 中心静脈カテーテル留置<br>• 動脈ライン留置<br>• 胸腔穿刺<br>• 腹腔穿刺<br>• 関節穿刺<br>• 腰部クモ膜下穿刺<br>• 腰部硬膜外穿刺<br>• 針生検<br>• 経腸栄養目的の胃管挿入<br>• ギプス巻き<br>• 気管内挿管・抜管<br>• 除細動・同期カウンターショック |

# 帝京大学医学部附属病院初期臨床研修医規定

第１条　本病院に医師法第１６条の２による２年間の初期臨床研修制度をおく。

第２条　病院長は研修制度の精神に以則り、初期臨床研修プログラムを作成なければならない

２　各科の科長および診療単位の長は、第１項に従い詳細なカリキュラムを作成しなければならない。

第３条　初期臨床研修医を志望する者は学校教育法による大学の医学部医学科（歯学部歯学科）または医科大学医学部（歯科大学歯学部）を卒業し医師免許を有する者で２度目の医籍登録をしていない者。

第４条　初期臨床研修医の募集については、研修管理委員会において別に定める。

第５条　研修開始は毎年４月として、研修修了は原則として２年後の３月末日とする。研修修了は研修管理委員会において認定する。

２　研修管理委員会において２年間で初期研修が修了できないと判定された場合には必要な期間研修期間を延長することができる。

第６条　初期臨床研修医になるためには、募集要項に従って採用試験を受験しなければならない。採用決定後、病院長に臨床研修申請を提出することとする。

２　医科初期臨床研修医は保険医登録および麻薬使用に関する登録を、歯科初期臨床研修医は保険医登録をしなければならない。

第７条　初期臨床研修医を志望する者の提出書類は募集要項に定める。

第８条　初期臨床研修医の研修内容については、臨床研修実施要項による。

２　初期臨床研修医は指導医の指示に基づいて業務を遂行しなければならない。研修期間は当院以外での医療機関におけるアルバイト診療は行ってはならない。

第９条　初期臨床研修医には本病院の規定に基づき給与が支給される。支給額は募集要項に記載しなければならない。

第１０条　初期臨床研修医は医師としての本文を弁え、この規定および本大学の定める諸規定に従わなければならない。

第１１条　病院長は、研修管理委員会の協議に基づき、前項に違反した者、または研修医として本病院において研修することが適当でないと認めた者については、初期臨床研修を中止させることができる。

（雑則）

第１２条　この規定の実施にあたり必要な事項は、病院運営会議において協議の上、理事長の承認をもって決定する。

（附則）

この規程は、１９８３年1月1日から施行する。
この規程は、２０００年4月1日から施行する。
この規程は、２０１１年4月1日から施行する。
この規程は、２０１８年１２月１９日から施行する。

【改訂履歴】

| 改訂日付 | 改訂箇所 | 改定内容 | 改訂者 |
|---|---|---|---|
| 2018/12/19 | 附則 | 「改訂」から「施行する」へ変更 | 広報企画課 |